

65

AUTUMN 2023

関西学院 後援会通信

「はじめませんか、親と子と関学の絆づくり。」

わが子と共に育み、共に歩む
MASTERY FOR SERVICE

関西学院後援会

関西学院後援会通信[65] 2023年秋号

事務局 | 関西学院 総務部 校友課

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL.0798-54-6010 FAX.0798-51-0929



MASTERY FOR

SERVICE

Contents

- 03 院長・後援会会長からのメッセージ
- 05 The Spirit of KWANSEI
- 09 Welcome to KG campus
- 11 We Are KWANSEI!
- 17 私もK.G.です IN THE COMPANY
- 21 KG Career Guide
- 25 KG Go Global
- 33 CLOSE UP RESEARCH
- 37 後援会報告
- 41 イベントレポート
- 43 新月祭
- 45 ホームカミングデー
- 47 院長室だより
- 48 プレゼントのご案内
- 49 関西学院会館からのご案内



院長・後援会会長からのメッセージ

保護者の皆さま、後援会活動にご尽力いただいています皆さま、関西学院の教育にご賛同いただき、ご協力、ご支援くださっていることを心より感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症も第5類に分類され、様々な制限が取り除かれ、4年前の学校の姿を取り戻しつつあります。しかし、この3年間のパンデミックが、今後、子どもたちのからだや心、生活にどのような変化をもたらせるのかを注視していかなければならないと思っています。

英語に「It takes a village to raise a child」という言葉があります。直訳すると「子どもを育てるには村が必要である」となりますが、子育てに関して、親や家族だけでなく、周囲のコミュニティや社会全体の協力が必要であるという意味を表しています。

しかしながら、現代ではそういう「村」、コミュニティの繋がりが弱くなっています。近所づきあいもありありませんし、とりに住んでいる人の名前もよく知らないことがあります。その一方でインターネットの中では世界中の人と繋がり、瞬時に情報を交換したり、顔を見ながら話をすることができます。隣家の調理のにおいは遮断されている一方で、見知らぬ人には自分が今どこにいて、何を食べて、何をしているのかというプライベートなことまで教え合っています。

こうしたインターネット上のコミュニティが持つ可能性は有効に用いるべきですが、実際の子育てはおしゃれな写真や映像で物語れるものではありません。各家庭が孤立することなく、実際に人と人が出会い、助け合うことができるコミュニティ、子どもたちが様々な大人=生き方と出会うことができるコミュニティが必要だと感じています。三万人におよぶ園児・児童・生徒・学生が集う関西学院は、ひとつの「village」（村、コミュニティ）であるといえます。幼稚園から大学までの学校、教職員、さらに同窓生までが協力して子どもたちの育ちに携わっています。子どもたちが関西学院というコミュニティに出会ってくれることを願っています。そのために、関西学院もさらに有機的な繋がりを持つ子育ての場になっていくよう尽力してまいります。



関西学院 院長
中道 基夫
Nakamichi Motoo

保護者の皆さま、平素より関西学院後援会の活動にご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

関西学院後援会は、関西学院大学をはじめ、高等部、中学部、初等部、聖和短期大学（2024年4月より関西学院短期大学に名称変更）、千里国際中等部・高等部からなる約27,000名の学生保護者で構成されており、「学院の教育目的達成のため保護者の立場から後援をなす」という目的で発足し、学生への直接的な支援、またお子様を見守る保護者の方への情報発信の支援という形で活動しております。

後援会活動で特に意識することは、学生ならびに保護者の皆様ができるだけ平等に支援したいということです。これは金銭を平等にわけるということではなく、家庭環境や住む地域から生じる心の不安を解消できるような支援をし、安心してチャレンジできる平等な環境を整えるための支援をしたという意味です。その為に様々な活動援助や地方10数か所での保護者交流会を開催させていただいております。後援会も関西学院のスクールモットーであるMastery for Serviceを貫きたいという思いです。そしてこのような活動を通して、学生・生徒・児童、保護者、学校がより成長発展し、地域に貢献し、また世界に貢献できることが最大の目標であると考えております。

子どもたちに目を向けますと、昨年まで3年間にわたり新型コロナウイルスという我々大人も経験したことがない世界で、楽しみにしていた学校行事の中止を余儀なくされ、友人との会話は常にマスク越しという制限された毎日の中でも、自ら考え知恵を出し合い、ひたすら前を向いて行動する姿には感銘を受けました。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」（ローマの信徒への手紙5章3-4節）という有名な聖書の言葉がありますが、キリスト教主義教育や礼拝を通じて学生一人ひとりがまさにこれを実践されていたように思います。制限のなくなったいま、いよいよ希望に向かって自由に羽ばたいていかれることを願うばかりです。そして後援会事業として年度末に各学校で行われる後援会表彰式において、輝かしい成果をあげられた子どもたちを一人でも多く表彰できることを楽しみにしております。

最後に関西学院に集う皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



後援会会長
加地 正和
Kaji Masakazu

The Spirit of KWANSEI

卒業生インタビュー

各界で活躍する関西学院の卒業生たち。
その根底に流れる「関学スピリット」を
インタビューから紐解きます。

挑戦を重ねた先に見つけた
アナウンサーという道。
これからも目標に向かって
まっすぐ努力し続けたい。

TBSアナウンサーの古田敬郷さん。2015年に関西学院高等部へ入学し、2018年に関西学院大学社会学部に進学されました。小学2年生の頃から野球を始め、高校・大学でも野球部に所属し、野球に青春を捧げるもなかなか芽が出ず、苦難の日々を過ごします。就職活動について考え始めた時期に、お祖母様からの一言と、親友の存在がきっかけでアナウンサースクールへ通うように。生き生きと話す先輩の姿に憧れ、夢への決意はより強いものとなりました。現在は「THE TIME」をはじめとする様々な番組で活躍する古田さん。今回は野球に打ち込んだ日々や学生時代の思い出、アナウンサーとしての思いについてお聞きました。

古
田
敬
郷

Furuta Ukyo

熱い思いを胸に

ひたすらに野球に打ち込んだ日々

— 高等部から関西学院に通われていますが、進学を決めた理由を教えてください。

小学校2年生の頃からずっと野球をしてきて、中学時代も野球一色でした。しかし実力が及ばず、めざしていた高校のスポーツ推薦を諦めることに。気持ちを切り替え、受験勉強を始めましたが、野球への熱い思いが消えることはありませんでした。そんな時に出会ったのが関西学院高等部。勉強で入学できる、強豪の野球部がある学校だと知り、志望しました。オープンスクールで初めてキャンパスを訪れた時のことは今もよく覚えています。綺麗な校舎や洗練された雰囲気に憧れが一層強まりました。

— 高等部ではどのように過ごされましたか。

野球と勉強に明け暮れる3年間を過ごしました。通学に片道2時間かかり、6時半に家を出て23時頃に帰宅する毎日、充実感はあったものとにかく忙しかったです。学業の成績が悪いと補習に出なければならず、部活に支障が出るため、勉強にも一生懸命取り組みました。そんな高校時代は、現実の厳しさを知った苦節の3年間でもあります。高校でこそ活躍したいという思いで入部したものの、100名以上の部員を抱える部活の競争は激しく、レギュラーの座を獲得できず必死にもがいていました。毎朝5時に起きて弁当を作ってくれていた母や、ベンチにすら入れない試合でも応援に来てくれた父の期待に応えられないことが苦しかったです。高校生活の最後までひたむきに取り組みましたが、結局レギュラーにはなれませんでした。マウンドに立って、この悔しい思いを晴らしたいという強い気持ちで関西学院大学に進学し、硬式野球部に入部することを決意しました。



野球に打ち込んだ青春時代

ひたむきな努力が不可能を可能に変える

— 大学時代の思い出をお聞かせください。

やはり硬式野球部での毎日が最も心に残っています。大学の野球部は高校以上に部員数も多く、全国から強い選手が集まってくるため、苦しい日々が続きました。ただ、印象的だったのはレギュラーだけでなく、部員全員で1つのチームだったということ。一軍のメンバーが練習している間、それ以外のメンバーは整備やアイシング、マッサージ、データの分析など全面的なサポートに回っていました。一軍の練習が終われば真っ暗なグラウンドで遅い時間まで練習して、本当に大変な毎日でしたが、誰一人辞めなかったのは、本当に野球と仲間が好きだったからなんだと思います。レギュラーが試合で講義に出られない時はノートを取ったり、情報を共有したり、グラウンド外でもサポートしていましたね。レギュラーメンバーも驕らない良い人ばかりで、投球に関するアドバイスをくれるなど技術面で私たちを支えてくれていました。とても熱くて、良いチームだったと思います。

社会学部で幅広く様々なことを学んだのも大学ならではの思い出です。なかには恋愛心理学の講義もあって、大きな教室でも立ち見の人が出てくるほど人気でしたね(笑)。ゼミはマスコミに強いと言われる難波功士教授のゼミを選びました。関西テレビに見学に行けるなど、アナウンサーをめざす上でも役立つことがたくさん学べた場だったと感じます。入学当初は学びたいことが決まっていなかったのですが、いざ興味のあることが見つかった時に学べる環境が整っていたのは本当にありがたかったです。

— アナウンサーを志したきっかけを教えてください。

大学2年生の頃、将来について真剣に考え始めた際に、祖母から「就職活動に向けて、上手く話せるようになった方が良いよ」と言われたことがきっかけで、話し方を学べる場所と言えばアナウンサースクールという思い込みから、スクールへの入学を考え始めました。しかし見学に行ったスクールはレベルが高く、なかなか一歩を踏み出せずにいました。そんな時、背中を押してくれたのが共に野球部で頑張ってきた親友です。彼は私と出身地が近く、同じように幼い頃からずっと野球をしていました。ポイズリーグ時代に対戦したこともあったんです。体格の良さが印象的で記憶に残っていました。再会したのは大学の入学式の日。硬式野球部入部希望者が集められた際に、隣に彼がいたので思わず声をかけ、仲良くなりました。そんな彼と就職活動の話になった時に、彼が「実はアナウンサーをめざしている」と言ったんです。丁度アナウンサースクールに興味を持ち始めた時期だったので驚くと同時に「自分も同じだ」と返していました。ほどなくして彼と同じスクールに入学。最初は原稿読みもフリートークも全然できなかったのですが、やればやるほど上達していくのがとにかく嬉しく、どんどん意欲が増していきました。本格的にアナウンサーをめざし始めるきっかけになったのは、OBの方の存在です。生き生きと楽しそうに話す姿を見て、自分もそうなりたいと思うようになりました。その後いくつもの就職試験を乗り越え、私も彼もアナウンサーになることができ、大好きな野球を実況するという同じ夢に向かって進んでいます。



— 大学時代にはボクシングのプロライセンスも取得されていますね。

部活も引退して時間があつたため、内定をいただいてから入社までの1年半で特技を身につけようと考えました。いつかTBSで大晦日に放送されるボクシング中継の実況がしたいという思いからボクシングを始めることに。初心者にも関わらず、大学生の間にプロライセンスを取得したいという困難な目標に、最初は周囲から反対され、何軒ものジムに門前払いされました。それでも諦めきれず、まずは実力をつけるためにフィットネス専門のボクシングジムに入会。半年間、1から地道に鍛錬を重ねました。その姿がトレーナーの方の目に留まり、プロをめざせるジムを紹介してくれたんです。そこからさらに1年間打ち込みました。就活を終えた周りの友人が自由な時間を謳歌する中、毎日ジムに通い、痛い思いをしてまで、なぜ挑戦するのか分からなくなる時もありました。それでも目標を達成するため、必死で鍛錬を続けた結果、無事ライセンスを取得することができました。

着実に経験を積み

夢に向かって一歩ずつ進んでいきたい

— アナウンサーの仕事と今後の目標について教えてください。

現在は『THE TIME』にレギュラー出演しています。早朝4時半からの生放送の番組で、出演日は0時半に起きて1時に出社。そこからはオンエアまで、準備やミーティング、ニュースのチェックなど慌ただしく時間が過ぎていきます。放送中、特に気を張るのはスポーツのコーナーの原稿読み。この原稿は直前まで更新され、コーナー開始の直前に届くこともあります。原稿にはVTRの箇所、生読みの箇所、暗記してカメラを見て話す箇所などが混在していて、最初の頃はその流れが短時間で頭に入りきらず、何度も失敗しました。出演し始めて8か月が経ち、最近ようやく形になってきたかなと思います。テレビやラジオの出演がない日は研修にも取り組んでおり、今は野球実況を練習中。1回表から9回裏まで、4〜5時間声を枯らさず話し続けられるよう、訓練をしています。将来の目標はやはりWBCの実況と、年末のボクシング世界タイトルマッチの実況をすること。まずはしっかりと研修を頑張って、そこからヒーローインタビュー、CSの実況、地上波の実況と着実に経験を積みながら、ステップアップしていきたいです。

関西学院に通う後輩へメッセージ

学生時代は色々なことに興味が出てくる時期だと思います。関西学院は自由で、挑戦を応援してくれる場。意識の高い学生も多くて、刺激を与え合える環境だと思います。私自身、関西学院に入って、見える景色がガラッと変わりました。とにかくやりたいと思ったことをやってみてください。また関西学院には頼れる卒業生がたくさんいます。私も就職活動中から今まで多くの先輩に出会い、助けられたことで、次の世代に還元したいと思うようになりました。皆さんもぜひ先輩を頼って、後輩を助け、Mastery for Serviceの輪、奉仕の輪をつないでいってほしいです。

My History

— 私の成長年表 —

- 0歳 ● 大阪府岸和田市に生まれる。
- 8歳 ● 野球を始める。
- 14歳 ● 中学時代、野球で成果が出せず、めざしていた高校のスポーツ推薦を諦めることに。気持ちを切り替え受験勉強を始める。高校でも野球をしたいという思いから、勉強と部活動を両立できる関西学院高等部への進学を決意。
- 15歳 ● 関西学院高等部に入学。野球部に入部するも、レギュラーの座を獲得することができず苦節の日々を過ごす。
- 18歳 ● 関西学院大学社会学部に進学。大学でこそマウンドに立ちたいという思いから硬式野球部に入部する。
- 19歳 ● 就職活動について考え、アナウンサースクールに通い始める。
- 21歳 ● 就職活動を乗り越え、TBSテレビに内定。
- 21歳 ● 特技を身につけたいという思いから、ボクシングを始める。1年間鍛錬を積みプロテストに合格。
- 22歳 ● TBSテレビに入社。『お笑いの日』2022でテレビ初出演を果たし、初のレギュラー番組として『THE TIME』へ出演し始める。



Welcome to KG campus



組み立て式 VR スコープ『ハコスコ』

後援会通信64号と共にお届けしました組み立て式VRスコープ『ハコスコ』をご使用いただくとよりリアルに体感できます。お手持ちのデバイスで二次元バーコードを読み込み、前方のポケットにセットして、360°動画をお楽しみください。

スマートフォンで二次元バーコードを読み取るとVR360°動画を見ることができます。
バーチャルキャンパスをぜひ体感してください。

関西学院大学
キャンパスツアー

西宮上ヶ原 キャンパス 編



関西学院大学
キャンパスツアー

神戸三田 キャンパス 編



シンボルである時計台から、学生たちが日常を送る校舎や食堂まで、美しいヴォーリズ建築が魅力の西宮上ヶ原キャンパスをダイジェストでご紹介。チャペルでの礼拝や、体育会総部アメリカンフットボール部による大迫力の円陣など、360°動画ならではの体験をお届けします。



世界の課題解決に新しい価値観で挑む“Borderless Innovator”（革新者）の育成を掲げる神戸三田キャンパス。キャンパスの中心に位置する“生きた学びの場”アカデミックcommonsや、最先端の研究を推進する実験施設など、その真価が感じられるスポットをご紹介します。

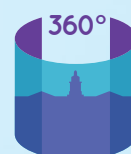


関西学院後援会LINE公式アカウント開設



後援会通信（年2回発行）と公式Webサイトでの情報発信を補足することを目的として、公式アカウントを開設いたしました。Webサイトの更新通知をはじめ、より即時性の高い情報発信のツールとして活用してまいりますのでぜひフォローしてください！

なお、後援会通信と公式Webサイトは継続して運用を続けてまいります。今後も引き続きアンケートを通じて後援会員の皆さまからの“声”をお聞かせください。



続々とVR360°動画を展開中

こちらで紹介したキャンパスツアー動画以外のVR360°動画は右記よりご視聴ください。

また、P12では千刈キャンパス、P35では神戸三田キャンパスⅧ号館天体観測ドームの動画を視聴することができます。

その他にも、キャンパスの様子をはじめとした様々なコンテンツをVR動画でお届けする企画も計画中ですので、楽しみにお待ちください。



つながり、ひろがる、
関西学院。

関西学院の中にある様々なコミュニティ。
そこには、共通の想いや志で
つながる絆があります。

K.G. × 献身

1955年、キリスト教を基にした野外活動教育と宗教教育の実践を目的に誕生した千刈キャンプ。千刈リーダーズクラブは千刈キャンプの学生ボランティアリーダーとして、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”（奉仕のための練達）を実践すべく活動している。



学生

Doi
Kanako

学生

Adachi
Ai

学生

Asakawa
Yuma

利用者を思い行動する。
キャンプ場運営を通して
体現する建学の精神。

We Are KWANSEI!

利用者と直接関わる業務から裏方まで幅広い活動を展開。

まず、千刈リーダーズクラブの
活動内容を教えてください。

朝川 宗教総部千刈リーダーズクラブの活動内容は主に3つあります。1つ目はキャンパーケア。千刈キャンプを利用される方々の要望に応じて楽しい思い出になるようお手伝いする業務です。2つ目は場内整備。草刈りや壊れた階段の修理、分かりやすい看板の作成など場内を整備することで安全なキャンプ場運営をめざしています。3つ目が主催キャンプの実施。企画立案から実行までリーダーたちで一からキャンプを作り上げます。自然の中で活動する面白さ、千刈キャンプの魅力がダイレクトに発信できる取り組みです。

土井 キャンパーケアでは、最初に利用者と「プレイヤーミーティング」を行い、そこで利用人数や利用施設などを確認します。その時に、口に出して伝えてもらう要望はもちろんのこと、それぞれの利用者のニーズに気付いて最適な楽しみ方を提案するようにしています。例えば、星が綺麗に見える

穴場の場所をご案内するなど、定期的に足を運んでいる私たちだからこそ発見できる魅力を伝えるようにしています。千刈キャンプを初めて利用される方に素敵な思い出を残してもらいリピート利用していただけるよう取り組んでいます。

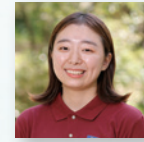
足立 場内整備は、キャンパーのために施設を整えて使いやすい状態を保つことが大目的ですが、草を刈って道を切り拓いたり、小休憩できる小屋を作ったり、自分たちがイメージするキャンプ場を作り上げられる点も醍醐味の一つ。千刈リーダーズクラブの活動は、表に出て活躍するものから黒子に徹した裏方サポートまで、幅広いのが特徴ですね。

皆さんが千刈リーダーズクラブに入った理由やきっかけを教えてください。

土井 私は中高生の頃から岡山県の前島や青島でキャンプリーターと共に野外活動を行う機会が何度かありました。楽しい思い出が増える

につれ、参加者の安全を守りながら自然の面白さを伝えるキャンプリーターに憧れを抱くようになりました。千刈リーダーズクラブは、大学が所有するキャンプ場の運営を担いながら、キャンプを一から作り上げる特別な存在。私の求めていたリーダー像と合致したので入部を決めました。**朝川** 私は親族がクリスチャンで教会に通う習慣がありました。小学生時代から教会が主催するキャンプに参加しており、もともとキャンプやボランティア活動に興味があったんです。学部先輩に誘われ、活動内容を知るうちに興味わいて入部しました。

足立 高校時代、ボランティア部で生き生きと活動する姉の姿に憧れ、同部に所属していた私は、大学でも奉仕活動を続けたいと考えていました。そんな中、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に出会い、その言葉に共感して入学を決意。もともとアウトドアなタイプではありませんでしたが、奉仕活動を行いな



足立 愛
Adachi Ai

[関西学院大学 教育学部
教育学科 3年]

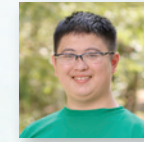
神戸龍谷高等学校出身。関西学院大学宗教総部の部長を務める。“Mastery for Service”の精神を体現する活動に惹かれ千刈リーダーズクラブに参加。



土井 香菜子
Doi Kanako

[関西学院大学 文学部
総合心理科学科 3年]

啓明学院高等学校出身。中高生の頃から野外活動に親しむ。利用者のニーズに応える心こもったサービス提供心がけている。



朝川 優真
Asakawa Yuma

[関西学院大学 神学部 3年]

大阪府立芥川高等学校出身。牧師になることをめざし、所属学部の実習やプログラムに参加しながら千刈キャンプでの活動を両立。

がら、大学選びの決め手となったスクールモットーを体現できる千刈リーダーズクラブの活動に魅力を感じ、入部することにしました。

コロナ禍の先に満ち溢れた利用者たちの笑顔とリーダーのやりがい。

それぞれの想いによって集まったのですね。活動の中で大変だったことや、やりがいを感じることを教えてください。

朝川 部員は全員で8人。人数が少ないので、場内整備が大変です。中でも、千刈キャンプに数日間泊まり込み草刈りなどを行う「ワークキャンプ」はとてもハードでしたが、OB・OGの協力や励みもあり乗り越えることができました。卒業生とのネットワークが強いこともこの部の特徴ですね。何十年も前にリーダーをされていたOB・OGの方が利用者として訪問して下さることもあります。植物にとっても詳しい方もおられて勉強になります。

足立 私は、コロナ禍の中でモチベーションを維持するのに苦労しました。キャンプ場は利用者がいって初めて成り立つ場。入部時すでにコロナ禍にいた私たちは利用者がある千刈キャンプを想像することができませんでした。草を刈って燃やし、場内整備をひたすら行う活動にやりがいを感じられなくなった時も、それでも活動を続けてこられたのは常に一緒に頑張り続けてくれた同回生の仲間や、私たちを引っ張ってくれた先輩方がいたおかげです。

土井 コロナ禍でどんどんメンバーが減っていく中、不満を口にするのではなくて想いを共有して一緒に今後のことを考えて支え合ってきました。

足立 2023年4月からキャンプ場の本格的な利用が再開しました。実際に利用者で交流しながらケア活動を行うと、この笑顔のために頑張ってきたと改めて感じます。千刈キャンプで過ごす時間が実りあるものになるよう気を引き締めるとともに、やりがいを噛みしめています。割った竹を容

器にして炊き込みご飯を作ったり、足湯の装置を一から作ったりするなど、一見無謀に思える企画もトライ&エラーを繰り返して充実したキャンプを模索し続けています。

土井 キャンプ場で笑い声を耳にする時や利用者が気持ちよく活動されている姿を目にする時、直接的に関わることがなくても私たちが役に立っているという実感が湧きとても幸せな気持ちになりますよね。“Mastery for Service”の精神を体感する瞬間でもあります。

朝川 裏方業務で表には出ないことも多いですが、楽しそうな姿や感謝の言葉は大きなやりがいに繋がります。私は幼稚園児のキャンプに対応した時のことが印象に残っています。子どもたちの満開の笑顔や純粋な「ありがとうございます!」という言葉は心に響きました。

大変な苦労や想いを経て今があるのですね。活動の中で皆さんが成長したと感ずることや今後挑戦したいことを教えてください。

足立 まず、計画性の大切さを学べたことです。千刈リーダーズクラブの活動すべてに共通するのが計画性の大切さです。キャンパーケアでは、利用団体のスケジュールを把握したうえで、利用者の行動を先読みして準備を行うことが必要不可欠です。主催キャンプでは当日から逆算して企画や準備の進行管理を行い、場内整備では必要なタイミングまでに施設を整えないといけません。常に計画的に行動していく姿勢が身についたと思います。

朝川 キャンプのケアにはマニュアルはなく、利用

者一人ひとりに合った内容が求められます。利用者対応の経験を積みにつれて、以前よりも「相手のために自分は何ができるか」を考えられるようになったと感じます。私は将来牧師になることを目標としています。ここで身につけた力や活動経験は牧師の精神にもきっと生かされると信じています。

土井 私は、人前で話す度胸がつかまりました。例えば、主催キャンプの進行や施設の使い方を説明するとき、大勢の前で大きな声を出して話すことがあります。もともと人前で話すことが苦手でしたが、何度も練習して挑戦することで少しずつ克服できていると感じます。キャンプリーターに憧れた理由の1つが、大人数の前にしても皆の注目を集めながら楽しく話している姿でした。めざしていたリーダー像に近づいている気がします。

足立 今後は関学生にもっと千刈キャンプや宗教総部千刈リーダーズクラブの存在を知ってもらうために、関学生に対するキャンプを企画したいです。

土井 千刈キャンプは三田駅から約30分のところにある自然豊かで魅力的な場所。学生リーダーである私たちが関学生に対してもっと千刈キャンプの良さを発信して、その魅力を体感してもらいたいのきっかけづくりを行いたいですね。

朝川 これまでとは違うキャンプファイヤー、定番の「キャンプ飯」を増やすなど、現状に満足することなくこれからも進化し続けたいです。

千刈キャンプ場
VR360°動画の
ご視聴はこちらから



K.G. × 共育

長年、DOLPHINSの愛称で親しまれている関西学院大学応援団総部チアリーダー部。体育会総部の応援や学院・大学行事でのパフォーマンスなど、その活躍の場は広い。関西学院初等部の有志の児童たちで活動するKIDS DOLPHINSの指導も、彼女たちの重要な活動の1つだ。

共に学び合い、育っていく。学生と児童がチアリーディングを通して

学生

Iwanaga Yuna

学生

Maeda Maho

小学生

Yoneda Rea

小学生

Mori Hinata

小学生

Inoue Luna

チアで大切なのは、頑張る人を応援する思いやりの気持ち。

関西学院大学と初等部、それぞれのチアリーダー部の活動について教えてください。

岩永 関西学院大学応援団総部チアリーダー部DOLPHINSは、113名が所属する伝統ある団体です。体育会各部の応援活動、学院・大学行事や同窓会等でのパフォーマンス、自主公演「Winter Festa」の開催など、活動を幅広く展開しています。関西学院初等部でチアリーディングに取り組む児童たちの団体・KIDS DOLPHINSの指導も、その一環です。チアリーダー部の部員はそれぞれ広報や渉外などの役割を担っていますが、私たちは初等部担当として、コーチングにあたっています。

前田 KIDS DOLPHINSは、初等部入学説明会、体育祭の課外活動パフォーマンスステージ、6年生を送る会といった学校行事や、DOLPHINSの自主公演「Winter Festa」への出演に向けて練習しています。56名の児童たちの元気いっぱいパワ

フルなパフォーマンスが魅力のチームです。普段の練習では、チアの基礎の動きやイベントごとに披露するオリジナルダンスの振りつけといった技術的なことはもちろん、一生懸命頑張る人を一生懸命応援する思いやりの心を伝えるようにしています。

小学生の皆さんは、大学生コーチからどのようなことを学んできましたか？

井上 コーチはどんな時でも笑顔で優しく接してくれる、憧れの存在です。きっと勉強や練習で忙しいのに、私たちにはそのようなそぶりを一切見せないのがかっこいいと思います。頑張っている人を応援することは、素晴らしいことなんだと教えてもらいました。

米田 関西学院のWebサイトで偶然チアリーダーの写真をを見つけ、かわいいなと思ったことがきっかけで、KIDS DOLPHINSに入りました。実際

にコーチたちのチアを見て、迫力満点のパフォーマンスにびっくりしたのを覚えています。堂々とした姿から、自分に自信を持って踊ることの大切さを学びました。

森 コーチはいつも私たちに「今日も練習に来てくれてありがとう」と優しく声をかけてくれます。本番まであまり時間がなく焦っている時も、私たちの目線に立ってゆっくりと丁寧に教えてくれるのです。そのおかげで、あたたかい雰囲気がつくられています。

前田 私たちが強く感じているのは、学校の授業や宿題が大変な中で練習に集まってくれていることへの感謝です。例えば本番で失敗しても、それまで頑張ってきた過程を認めてもらった経験が、子どもたちの成長に繋がると信じています。森さんが私たちの姿勢からも学んでくれていることがわかり、とても嬉しいです。



岩永 優奈
Iwanaga Yuna

[関西学院大学 教育学部 教育学科 幼児教育コース 4年]
小学生の指導にあたるDOLPHINSメンバーの1人。幼い時に憧れていたチアリーダーになる夢を、大学で実現した。



前田 真歩
Maeda Maho

[関西学院大学 教育学部 教育学科 初等教育コース 4年]
KIDS DOLPHINSを指導。子どもの夢を応援するチアリーダーのような小学校教員をめざして勉強中。



井上 瑠夏
Inoue Luna

[関西学院初等部 6年生]
KIDS DOLPHINSのリーダー。メンバーをまとめる中で、人前に行くことへの苦手意識や人見知りの性格を克服できた。



森 ひなた
Mori Hinata

[関西学院初等部 6年生]
KIDS DOLPHINSのリーダー。大学生コーチや初等部の先生たちに憧れ、将来は学校の先生になりたいと考えている。



米田 怜愛
Yoneda Rea

[関西学院初等部 6年生]
森さんと共に副リーダーを務める。踊ることが大好きで、休み時間になると、教室で友達とチアの振り付けを復習している。

様々な垣根を超えて、築かれていく関西学院の輪。

井上さんはリーダー、米田さんと森さんは副リーダーを務めていますが、活動の中で大変だったことはありますか？

井上 KIDS DOLPHINSには幅広い学年の児童が所属しているのですが、下級生たちがなかなか練習に集中できない場面がありました。そこで、6年生だけでも練習を始めて真剣な空気感をつくり出してみると、下級生も自然と取り組んでくれるように。

森 3人のリーダーだけで全員をまとめることは大変です。6年生のみんなに協力してもらったことで、うまくいきました。

井上 普段の学校生活ではなかなか接することのない下級生とも、チアを通してしっかりと信頼関係を築いていきたいです。

米田 他には、みんなでストレッチをしている時に、一部のメンバーがおしゃべりしていたことがありました。コーチに相談したところ、「ストレッチの時のおしゃべりについてどう思うか」意見を話し合ってみたらというアドバイスが。困ったことが起きた時に、みんなで話し合い、ルールを決めていくことで、チームの結束力が強くなっていると感じます。

前田 KIDS DOLPHINSは子どもたち自身のチームなので、自ら試行錯誤しながら取り組んでもらうことを心がけています。私たちコーチがいなくても、6年生を中心として、主体的に練習が進められる素晴らしいチームです。

岩永 パフォーマンスの内容を考える時にも、主



体性を尊重するという観点から、どんな曲で踊りたいか等、児童から意見をもらうようにしています。そうやってつくった作品を、みんなが楽しそうに踊ってくれている姿には、大きなやりがいを感じますね。

関西学院で学んだりチアに取り組んだりする中で、どのように成長できたと思いますか？

岩永 チアリーダー部の活動では、関西学院の輪を実感する場面が多々ありました。同窓会の支部総会へ出演する際には、多くの卒業生と交流できます。またKIDS DOLPHINSの活動では、児童だけでなく、運営を担われている保護者の方々のコミュニケーションが欠かせません。チアを通してたくさんの方と出会えたことで、自分の世界が広がったと感じます。

前田 コーチを務める中で感じるのは、児童から学ぶことがとても多いということ。困っている友達に声をかけたり、学内はもちろん駅などで会った際に元気がよく挨拶をしてくれたりする姿を見て、見習いたいと感じます。

米田 6年間、初等部の先生から学んできた思いやりの心を、KIDS DOLPHINSの活動でも発揮できているのかなと思います。大きな声での挨拶は、された相手も嬉しい気持ちになるし、自分自

身にも気合が入るので、普段から心がけていることの1つです。

前田 とても素晴らしい姿勢ですね。KIDS DOLPHINSのみんなのおかげで、教える側と教えられる側が、共に学ぶことの大切さを実感できました。「Winter Festa」で大学生と小学生のコラボステージを実現させ、学び合える機会をもっと増やしたいと考えています。

井上 授業や課外活動で大学生と接することができるのは、関西学院初等部の魅力の1つです。こうした縦の繋がりが、自分は関学の一人だと感じる場面が多いので、テレビで関西学院大学出身のスポーツ選手が活躍しているのを見たりすると、とても誇らしい気持ちになります。これからも関西学院で学び、成長していきたいです。そして、大学生になったらDOLPHINSに入ります！

森 初等部の授業では、仲間同士で意見を交換する場面がたくさんあります。5年生の時に授業の司会・進行役を経験する機会があり、人に何かを伝えることの難しさを知ると同時に、おもしろさも感じました。普段からそのような立場で私たちが引っ張ってくれる、初等部の先生やチアの大学生コーチたちは私にとって憧れの存在です。将来は学校の先生になって、人を笑顔にできる指導者をめざしたいと思います。

K.G. × 協力

約20名という多くはない部員数ながら、それぞれの個性を生かし、協力し合って英語劇の上演や英語礼拝の運営を行う英語部。その代名詞とも言える、脚本から全て自分たちの力で創り上げる作品には熱い思いが込められている。

中学生

Go Kaede

中学生

Takeuchi Ema

中学生

Shimosato Aki

中学生

Shiraha Miori

良い作品作りに情熱をかける。部員全員で力を合わせ、

英語に親しみ、生きた英語力を身につける。

英語部の活動について教えてください。

下里 メインの活動は英語の劇や人形劇の上演です。脚本、大道具、演出など部員全員で協力し、全て自分たちで作ります。英訳も帰国子女の部員や、英語が得意な部員を中心に全て自分たちで行っています。披露の場は文化祭や年に3～4回ある全校英語礼拝、地域の教会や福祉施設、初等部など。主な題材は聖書や昔話の教えますが、文化祭では命やプロセスの大切さなど広いテーマを扱い、約1年前から構想を練って、20分間のオリジナルストーリーを上演します。

竹内 英語劇以外では、全校英語礼拝の司会や運営も英語部に任されています。その他にも、海外の方と交流したり、クリスマスやハロウィンにはお菓子作りやパーティーをして異文化に親しんだり、様々な活動ができてとても楽しい部活です。

英語部に入学したきっかけを教えてください。

白羽 初等部にいた頃に英語部の劇を観たことがきっかけです。観客に寄り添うような心温まるストーリーと、感情のこもったセリフや表情に感動し、英語部で演劇がやりたいと思いました。英語部に入学し、初等部で劇を上演した時には、憧れていた活動ができていて、感慨深い気持ちになりました。

呉 元々英語に興味があって、仮入部に参加したことが決め手になりました。親切な先輩が多く、和気あいあいとした雰囲気流れていて、ここでなら楽しく活動できそうだと感じました。

竹内 私も仮入部で感じた顧問の先生や先輩後輩の距離の近さに惹かれて入学しま

した。学年や英語力の差による隔たりや競争が少なく、皆で純粋に英語を楽しめる環境が気に入っています。

下里 英語部は本当に仲が良く、先輩方は中学部を卒業してからもよく部に顔を出してくれます。私が入学したきっかけは、初等部の授業で英語が好きになり、もっと深めていきたいと考えたことでした。活動を通じて、くだけた日常会話やジョークに触れ、授業では学べない表現を学べるのがとても楽しいです。

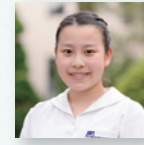


アメリカから来日した合唱団との交流イベントの様子



下里 亜葵 Shimosato Aki
[関西学院中学部 3年生]

英語部部長。部全体のまとめ役として、活動計画の策定やスケジュール管理、予算の相談など様々な仕事を担う。初等部の授業で英語に興味を持ち、より深めたいと考え入部した。



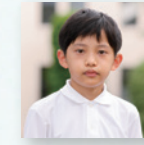
竹内 絵麻 Takeuchi Ema
[関西学院中学部 3年生]

英語部マネージャー。幼少期を海外で過ごした経験を活かし、脚本の英訳に一役買う。昨年度、全国の中高生を対象とした英語スピーチコンテストで3位を受賞した。



白羽 美織 Shiraha Miori
[関西学院中学部 3年生]

英語部副部長。初等部時代に英語劇を観て、生き生きとした演技に魅せられ、英語部に憧れを持つようになった。生徒会にも所属し、宗教総部長も務めている。



呉 楓 Go Kaede
[関西学院中学部 1年生]

2023年6月に英語部に入学。家族でカナダを訪れた際に、色々な国の人と話してみたいという思いを持つように。目標は英語礼拝の司会を務めること。

一人ひとりの力が成功につながる。

活動の中で苦労したことはありますか。

白羽 2年次の英語礼拝で上演する劇の脚本を任せられたことです。初めての脚本づくりは想像以上に大変でした。特に記憶に残っているのは、先輩に脚本を見ていただく会議の時のこと。多くの意見が寄せられ、慌ててしまい、自分の思いを伝えることさえできず非常に落ち込みました。そんな時に顧問の先生がかけてくれた「辛い気持ちにも逃げずにしっかり向き合えば、きっと強くなれる」という言葉は今も心に残っています。その言葉や周囲からの励ましに支えられ、なんとか書き終えた脚本は大好評。英語礼拝以外でも上演される作品になりました。大きな達成感を得られ、苦労は無駄じゃなかったと感じています。

下里 私は部長になって、部をまとめることの難しさを感じました。個性豊かな人が集まり、それぞれが劇への情熱を持っているため、意見がぶつかることがよくあります。細かい部分までこだわるため話し合いの機会も多いのですが、就任当初はどう進めれば良いのか戸惑うばかりでした。現在は各々の意見をよく聞き、それぞれの意思を尊重しながら、折衷案を見つけることを心がけています。個性を生かしながら、皆で作上げるからこそ、良い作品ができた時の喜びは大きいです。

竹内 部の運営はやはり難しいですね。私がマネージャーをしていて悩んだのは、入学した後の1年生の活動についてです。入学直後は劇の準備の手伝いがメインになるのですが、ただ雑用をさせられているという感覚ではなく、何かやりがいを感じてほしいと考えていました。また、やる気のある人や得意な人にだけ仕事が偏らないようにしたかったので、一人ひとりに明確な役割を割り

振りました。

呉 僕は大道具担当で、人形劇の金の斧の制作を任せられました。工作は得意

ではありませんが、先輩や同級生からアドバイスをもらいながら制作しています。初めてつくった大道具が綺麗に仕上がった時は嬉しかったです。

竹内 協力して進めてくれていることで、準備がスムーズに進み、とても助かっています。

支え合いながら活動しているんですね。活動の中でやりがいを感じる瞬間や英語部の魅力について教えてください。

下里 劇を観に来てくださった方から反響があった時に最もやりがいを感じます。特に劇に込めたメッセージが伝わっていたと感じられた時は非常に嬉しいです。

白羽 観ていただけているとも思っていなかった先生から劇の仕上がりを褒められた時には、驚くと同時に頑張った良かったと感じましたね。また活動を通じて、周りを見る力が身につきました。劇では客観的に状況を把握し、臨機応変に対応することが求められます。何度も練習と本番を重ねるうちに、自然と場に応じて動けるようになりました。

竹内 英語部で人前に立つことに慣れたのは大きな財産だと思います。劇はもちろん、英語礼拝の司会などの経験を積んだことで自信をもって話せるようになりました。英語部で身につけた話し方の工夫や表現力は、昨年度参加したスピーチコンテストの場でも生きたと感じます。また英語部の活動を通じて、英語の魅力も再認識しました。先日アメリカから来た合唱団の方々と



交流した際には、初めて会った海外の人とも意思疎通ができて、こんなに楽しめるのだと感動しました。

呉 僕も英語は世界の人と繋げてくれる素晴らしいものだと思います。家族でカナダに行った際に、日本とは全く違った環境で、世界には色々な場所があるのだと実感しました。英語部でもっと英語力を磨き、様々な国の人と話してみたいです。

最後に中学部の魅力や好きなところについて教えてください。

竹内 文化祭や体育大会など行事を全力で楽しめるのが好きです。規模の大きさも魅力ですが、何よりクラス全員で一致団結して盛り上げられるのが楽しいと感じます。

呉 施設が整っているところも良い点だと思います。僕が特に好きなのは図書館です。本の種類が多く、これまで読まなかったジャンルの本も手に取るようになりました。

下里 先生方のサポートも手厚いです。様々なことに積極的に取り組める環境が整っています。部長に任命され不安を感じていた時、先生に助けられました。

白羽 多種多様な部活があるところが魅力ではないでしょうか。多くの選択肢から好きなことを選び、全力で集中できる環境はとてもありがたいと感じます。

京セラ株式会社で活躍する3人の関西学院大学卒業生。
仕事のお話や、卒業後も続く関学生の絆についてお聞きしました。

黒津 大和さん

社会学部 2022年3月卒業
[電子部品営業部]
入社2年目

岡治 美穂さん

理工学研究科前期課程 2022年3月卒業
[半導体部品セラミック材料開発部]
入社2年目

田中 祥平さん

理工学部 2019年3月卒業
[人材開発部]
入社5年目

私も **K.G.** です
IN THE COMPANY

》》 京セラ株式会社

自由な校風のもと
挑戦を重ねた
経験を活かし、
技術で世界を
豊かにする。

入社のかっけは、

社員一人ひとりに宿る熱い想い。

田中 私が京セラへの入社を決めた最終的な理由は、長く働き続けられそうだと感じたからです。また、社員一人ひとりが会社や同僚を好ましく思っている雰囲気が印象的で、「私も仲間に加わりたい」と感じました。

黒津 私の志望のかっけは、京セラが掲げる「アミーバ経営」という経営手法に惹かれたことです。アミーバ経営とは、小さな集団ごとにリーダーを決め、全社員の意見を吸い上げる手法で、共同経営に近い考え方です。学生時代に所属していたアメリカンフットボール部の運営方針と似た考え方だったため、興味を持ちました。私が所属していたころの部員は約200名。日本一という大きな目標のために、各ポジションや役割ごとに目標と方針を決め、日々練習を重ねていました。部活動で大勢の人と関わりながら努力した在学時の経験を活かしたいと考え、様々な業種の方と接する機会のある職種を志望。念願叶って営業部に配属されました。

岡治 技術者が生き生きと研究している様子に惹かれ、入社を決めました。就職活動で様々な会社の座談会に参加する中、印象に残ったのが、京セラの技術者の方が研究・開発について、目を輝かせて熱く語っている様子。私自身も、自分の仕事を熱弁したくなる場所で働きたいと思うようになりました。大学院で光化学を学んでいたため、光に関する製品を多く取り扱っている京セラで経験を活かしたいと考えたのも、入社を決めたかっけの1つです。

どこか関学と似た

挑戦を後押ししてくれる社風のもとで、
やりがいのある仕事に挑む日々。

岡治 私の担当業務は、「光電気集積モジュール」という製品の開発です。電気信号を光信号に変換して送受信するために使われるもので、ゆくゆくはデータセンターなどのサーバー内に搭載される予定です。出荷までの過程には数多くの検査が必要。そのため、事業化をめざすうえでは、それぞれの検査の効率化と生産性アップが欠かせません。長時間を要する工程の短縮に向けて、効率的な評価方法・機器の提案のほか、それに伴う評価方法のマニュアル化にも取り組んでいます。

黒津 車載部品メーカーの多い愛知県で、車や携帯の内部に搭載されるコンデンサやダイオードなどの電子部品の営業を担当。既に採用いただいている京セラ製品を安定的に供給するための業務のほか、量産対応や新規採用に向けての働きかけも行っています。具体的には、安定した生産供給のための工場とのやりとり、クライアント訪問やWeb打ち合わせによる売り込み・提案などです。初めて製品の新規提案を行ったのは、入社からわずか5か月しか経っていないころ。ハイブリッド車などに搭載されている「車載安全装置」に関する部品を提案しました。プレゼンを指導してくださった職場の上司や先輩、技術面の知識を補強してくださった工場の技術者の方など、多く

の方々の支えのおかげでお客様に弊社製品の優位性を感じていただけ、有償サンプルの受注を獲得。サポートしてくださった周りの方へ、「受注」という恩返しができる営業のやりがいを強く感じた出来事です。

田中 京セラの特長は、年次を問わずに挑戦を後押ししてくれる社風。裁量の大きい案件を任せてもらった結果、黒津さんのような若手社員が大きく成長できるのは、素敵なことですね。私が所属する人事企画部HRイノベーション課のミッションは、価値あるデータサービスの提供により、社員個人がその能力を最大限に発揮できる環境を作り、事業の成長と社員の幸福に貢献すること。人事関連データの分析・活用のためのデータ活用基盤の構築や、タレントマネジメントシステムの企画、従業員サーベリの企画・運用、社内SNSアプリの開発、データ活用を中心とした全国の人事関連部門の課題解決など、業務内容は様々。社員一人ひとりが心地良く働ける環境を作ることができる点は、大きなやりがいです。

黒津 京セラで働く上で感じるのは、社風が関学の校風と似ていること。どちらも、個人の「やってみたい」を後押しする自由な環境です。関学で積極的に挑戦してきたからこそ、現在も失敗を恐れずに行動できています。

部活動やサークル、研究活動。

「やってみたい」に全力投球できる。

岡治 在学当時、私が特に力を入れて取り組んでいたのは、大学院時代の研究です。なかでも学会発表や教授への報告会などの研究報告には特に力を入れていました。大学院の集大成である修論発表では、3か月以上前から準備を開始。通学時に毎日、発表のイメージトレーニングをするなど、研究に打ち込んだ日々が印象に残っています。発表の本番では、多くの教授からコメントをいただき、とても嬉しかったです。誰にでも分かりやすい資料作りや発表を心がけてきた経験は、現在も様々な業務で役立っています。例えば、新入社員研修では、技術的な内容についてのプレゼンを、専門外の部署の社員130名ほどの前で実施。研究報告で培ったスキルを活用し、スムーズに発表できました。

田中 関学生は、岡治さんのようにコツコツと努力している人が多い印象です。一見クールに見える人でも、内なる炎を燃やしながらか、やりたいことに全力投球しているように感じます。

黒津 私が印象に残っているのは、体育会アメリカンフットボール部での活動です。学生日本一をめざしていた私たちは、学生が主体となって試合、練習、運営を毎年行っていました。私の役割は、ワイドレシーバーポジションの戦術リーダー。選手だけでなくコーチの目線も意識しながらメニューを作成し、メンバーをまと

Memories of K.G.



Kurotsu Yamato

めていました。そこで身についた、自ら課題を見つけ、計画を実行する力は、社会に出てからも役立っています。

田中 私も黒津さんと同様、課外活動によって大きく成長できました。バスケットボールサークルに所属し、大会で勝つために仲間と練習を重ねることはもちろん、メンバーが個々の強みを発揮しながら楽しんで活動できるよう、イベントも積極的に企画・開催。スポーツも会社も、人々が協働して1つのものを作り上げていくところは同じです。個性を活かすチーム作りを行っていた経験が、社員一人ひとりが自分らしく働ける環境を作る人事の仕事に活かされていると感じます。また、大学時代に同じサークルで活動していた仲間が京セラで働いていることも心の支えの1つ。今後、業務で関わる機会があれば、学生時代からのチームワークを発揮したいです。

岡治 学生には、部活動・サークル活動やアルバイトと学業を両立している人も多くいましたね。試験前にコモンズで友人たちと勉強会を開いたのも良い思い出です。学内を散歩したり、友人と談笑したり、息抜きをしながら得

意分野を教え合い、互いに良い刺激を与えられていたと感じます。

黒津 社会に出てからも、関学出身者とは、先輩・後輩を問わず、すぐに仲良くなれる気がします。岡治さんと私は入社研修で出会いましたが、同じ大学出身と知り、すぐに打ち解けることができました。関学出身者の同期の活躍は、「自分も頑張ろう」と良いモチベーションになっています。

田中 関学の先輩方も、様々なフィールドで活躍されていますね。京セラにおいても、私の案件に協力してもらった別の部署の先輩が関学出身だったことで、スムーズに仕事が進んだ経験があります。

すれば、自分のなりたい姿、将来像も自然と決まってくるはずですよ。

田中 将来の夢や進路がまだ決まっていない時こそ、可能性を広げることを心掛けてください。チャレンジを重ねるなかで、やりたいことや好きなことが見つかります。素晴らしい経験と成長の機会、そして刺激し合える仲間が、あなたを待っています。

岡治 大学生活の魅力は、複数の専門分野を学べるところです。様々なアプローチで学問を深められるのは、大学だからこそ。一生ものの仲間と共に、時に息抜きをしながら、学びたいことを思いっきり学んでください。

様々な経験を積むなかで、
将来のビジョンも見えてくる。

黒津 関学での学生生活は、非常に自由度の高いものでした。時間の使い方を工夫すれば、自分のやりたいことに没頭できます。失敗を恐れず、たくさんの経験をしてください。そう



Okaji Miho

Memories of K.G.



Memories of K.G.



Tanaka Shohei

「キャリアの関学」を支えるキャリアセンターの手厚いサポート

「ここまでやる！」関学の就職支援

キャリアセンターでは、多岐にわたるプログラムを実施していますが、「個の支援」を最も大切にしています。学生によって、動きたいと思うタイミングはそれぞれで、自分の志向や強みに気づく瞬間は様々です。一人ひとりの考え方、タイミングによりそう、きめこまかな支援を心掛けて全ての職員が対応に当たっています。

多彩なプログラム

●これらは一例で、他にも多くのプログラムを実施しています。

就活の基礎から応用まですべてを学べる！ キャリアガイダンス

学年や専攻に合わせて、キャリアガイダンスを年間に複数回開催しています。就職活動の基礎から、インターシップへの参加方法、応募書類の書き方、面接・筆記試験対策といった実践段階まで丁寧に解説しています。今年3月に学部2年生向けに実施したキャリアガイダンスには、オンデマンド配信の動画視聴も含めるとほぼ全ての学生が参加しました。



キャリア・就職についてなんでも相談できる！ 個人面談

年間通じて多くの学生が利用しているNo.1サポートが、個人面談です。企業の人事担当経験者がキャリアアドバイザーとして常駐しており、進路や就職活動の悩み、企業研究の方法やエントリーシートの相談など、幅広い相談に対応しています。また、オンライン面談も導入し、キャンパスに足を運ぶことなく個人面談を受けることができます。



関学生を採用したい企業に出会える！ 学内企業セミナー

本学学生の採用に積極的な企業・団体が参加するセミナーを開催しています。毎年、数多くの学生がこのセミナーを内定獲得につなげています。



就活初心者でも安心！ 就活のきほんシリーズ

自己PRや筆記試験、志望動機にグループディスカッションなど、就活で準備が必要な内容について、ワーク形式を中心とした講座を開催しています。参加者同士の交流を図ることで、キャリアガイダンスで学んだ知識を、学生一人ひとりが身につけることを目的としています。



西宮聖和キャンパス 未来塾

教員、保育士をめざす教育学部生が夢を実現し現場で活躍できるように、キャリア支援プログラムとして「未来塾」を実施しています。「未来塾特別講座」は低学年から参加可能で、現場の最新トピック等を取り上げます。「未来塾3年」では、採用試験を意識した実践的なプログラムを提供しています。



神戸三田キャンパス 理系学生への充実したキャリア・就職サポート

教員とキャリアセンターが連携し、学生の進路選択を手厚くサポートしています。エントリーシート作成をはじめ、業界・企業・職種研究など、幅広い就職支援プログラムを実施。さらに、学部卒と院卒での就職の違いを知るガイダンス等も開催し、長期的な視点で学生が自らのキャリアを考える機会を提供しています。



春学期の対面イベント紹介(抜粋)

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、学校での就職・キャリア支援も対面型の支援に移行しています。

イベント・セミナー

人気企業の内々定者・卒業生座談会

就職活動を終えたばかりの関学生や、企業で活躍する卒業生の方と在学生在が、将来のことや就職活動について直接相談できる座談会をコロナ禍以降で初めて開催しました。先日まで就職活動を行っていた内々定者の経験談や、憧れの企業で実際に働かれている卒業生のお話を聞くことで、より具体的に将来のことや、その企業で働くイメージができる貴重な機会となりました。

[参加企業(抜粋)]

コクヨ、東京海上日動、バンダイ、毎日放送



関西大手企業の人事の本音！セミナー

毎年多くの関学生が入社している大手人気企業の中でも、関西に本社がある企業の人事担当者を招いたセミナーです。学生が興味を持ちやすい「人事の本音」というテーマで企業の人事担当者とお話することで、各社の求める人物像の共通点や異なりを理解しながら、多様な業界・企業・仕事について視野を広げ、自身のキャリア形成や就職活動に役立つセミナーとなりました。

[参加企業]

NTT西日本、JR西日本、パナソニック、阪急阪神百貨店



BiZCLASS

神戸三田キャンパスでは、企業・団体を招いてのワークショップ「BiZCLASS」を開催しています。本ワークショップでは、企業側が設定する課題に対して学生が解決策や新たな商品・サービスを提案し、最後に発表内容に対するフィードバックを受けます。BiZCLASSでの学びにより、学生は、自身の研究と仕事・社会の結びつきを実感するとともに、将来のキャリア・イメージを具体化させます。

[実施企業・団体(抜粋)]

大阪ガス、デロイトトーマツ、パナソニック、三田市



インターンシップ

夏のKG枠インターンシップ

(※産学協議会の分類「タイプ2」に相当)

関学生を対象に特別に参加枠をいただいている企業・団体でのインターンシップです。一般に公募されていないものや、一般に公募しているプログラムとは別に、関学生を対象に特別プログラムを実施していただいているものもあり、2023年度は16企業2自治体にご協力頂きました。



関西学院大学では様々な留学プログラムをご用意しています。外国語が得意な人も得意でない人も、ぴったりのプログラムを見つけて、「世界市民」への一歩を踏み出していただければと思います。

関西学院大学が
留学に強い

5
つの理由

58カ国・地域
290を超える大学・国際機関 (※2023年4月現在)



- 1 多様な留学先、多様なプログラム**
世界中の大学や教育機関と協定を結び、英語圏はもちろん、ヨーロッパやアジア各国など様々な言語と文化を体験できる70以上のプログラムを実施。留学の難易度、期間、目的も多様で、一人ひとりのニーズにあったプログラムが見つかります。
- 2 奨学金制度が充実**
プログラムごとに、返済不要の支給型奨学金制度を用意しています。また、急激な円安などの状況においても学生の留学を後押しするため、期間限定の「緊急留学支援金」も新設しています。詳細は次頁をご参照ください。
- 3 原則4年*で卒業できる**
学内で実施しているほとんどの留学プログラムで、単位が認定・付与されます。半年や1年間の留学の場合、留学先での学習や成果が単位として認められるので、4年間で卒業が原則可能です。
*4年で卒業する場合、学部により参加可能な留学プログラムが異なります。
- 4 万全のサポート体制**
国際教育・協力センターが、留学を全面的にサポート。留学相談にお答えすることはもちろん、語学力向上の支援も行っています。
● 留学情報の発信
● 留学フェア(留学促進イベント)の開催
● 留学個別相談(留学アドバイザー)
- 5 危機管理体制の整備**
プログラム参加学生には、本学指定の海外旅行傷害保険や危機管理サービスへの加入を義務づけています。これらは昨今の世界情勢を踏まえ、予期せぬ事態に備えてセーフティネットを重層化することを目的としており、事件・事故、トラブル発生の際には、本学と危機管理会社が緊密に連携・情報共有しながら対応にあたります。

情報収集

高年次になると参加できる留学プログラムの選択肢が狭まります。後悔しないよう1・2年生の早い段階で情報収集することをおすすめします。

関西学院大学には、留学期間や行先、目的が異なる様々なタイプの留学があります。少しでも留学に興味・関心がある方は、CIECまでぜひお問い合わせください。

● 国際教育・協力センター(CIEC)とは?

CIECでは、関西学院大学が全学に向けて提供する留学プログラムや国際交流、留学準備、英語で学べる科目や交流イベントなど、様々な情報を発信しています。「どこの情報にアクセスすれば良いかわからない」という方は、まずお手元のパソコンまたはスマートフォンからCIECのWebサイトをご覧ください。また、留学や国際交流について質問などがある場合は、お電話をいただくか、事務室までぜひお越しください。

	西宮上ヶ原キャンパス	神戸三田キャンパス	Webサイト
場所	G号館1階	VII号館1階	
開室時間	8:50-11:30 / 12:30-16:50	9:00-11:30 / 12:30-17:00	
電話番号	0798-54-6115	079-565-7625	

*土日祝は閉室しています。

● 留学アドバイザー

「プログラムが多すぎて選べない」「留学に参加するために何が必要?」など、学生のみなさんが抱える留学に関する様々な悩みごとを経験豊富な専門のアドバイザーが1対1の面談で解決します。CIECウェブサイトトップページの「相談窓口」から相談希望日時を予約のうえ、ご利用ください。



● 留学先輩相談

留学を経験した「留学先輩」を紹介し、気軽に相談できる機会を提供することで、留学に関する不安や悩みを解消し、学生の留学を後押しするCIECの新しい留学相談制度です。



留学のための経済的支援

経済的負担を少しでも軽減し留学にチャレンジできるよう、関学では原則としてすべてのプログラムで奨学金を支給し、留学を支援しています。

※国際学部生は、国際学部留学奨励金・奨学金を支給。

プログラム名	種類・金額(支給型)
交換留学	笹森四郎奨学金、井谷憲次奨学金(2学期:100万円、1学期:50万円)
	交換留学奨学金(2学期:30万円、1学期:15万円)
短期プログラム	短期留学奨学金(アジア3万円、アジア以外5万円) <small>※海外の協定大学へ派遣されるプログラムのみ ※学部主催プログラム含む</small>
特定の指定プログラム	井谷憲次奨学金(アジア3万円、アジア以外5万円)
中期留学(1 Semester)	中期留学奨学金(一律20万円)
国連ユースボランティア	費用(渡航費、滞在費等)は国連ボランティア計画(UNV)の規定により支給
国際社会貢献活動	国際社会貢献活動奨学金(30万円)
長期留学(学部科目履修型)	長期留学奨学金(2学期:50万円、1学期:25万円)

学内でできる国際交流

コロナ禍でしばらく中止となっていたが、2022年度秋学期から交換学生の受入を再開しました! 交換学生とともに学ぶ授業やキャンパスでの国際交流などのチャンスも今後どんどん増えていきますので、ぜひ積極的にイベント等にお申し込みください!

Pick-Up コーヒーアワー

海外から関学に来ている教授・講師・研究者・留学生などを迎えて、ドリンクを飲みながら自由にお話をするイベントです。世界各国から関学にきている方と出会い、交流する素晴らしいチャンスにもなります。関学生は誰でも無料で参加でき、関学にいながら国際交流ができます。



コーヒーアワーやKGバディーズ以外にも、学内でできる国際交流はたくさんあります。 <https://ciec.kwansei.ac.jp/interaction/>

Pick-Up 留学生バディ制度「KGバディーズ」

バディ学生と留学生が関学での友人となり、異文化交流を行いながら留学生の新生活や日本語学習をサポートする制度です。一般学生と同じく卒業をめざして在学する「正規留学生」や、各国の指定校から期間限定で在学する「交換留学生」が来日した学期にマッチングします。



ホストファミリー募集中!

~留学生と暮らす新しい生活「ホストファミリー」はじめませんか?~

関西学院大学では、留学生を家族として受け入れる「ホストファミリー」を募集しています。交換学生や短期プログラムの留学生を、約3週間~1年間家族の一員として受け入れ、お世話いただくご家庭を募集しています。国際交流に興味・関心をお持ちの方はQRコードから詳細をご確認のうえぜひご登録ください。また、募集は本学学生のご家族に限定しておりませんので、そのような方がお知り合いにいらっしゃいましたらぜひご案内ください。

受入条件	寝具・机・椅子・収納スペース・エアコン・インターネット(Wi-Fi)が利用可能な個室の提供	受入補助費 日額 2,300円
	平日・2食(朝・晩)、土日祝日:3食(朝・昼・晩)の食事の提供	
	公共交通機関で西宮上ヶ原キャンパスまで通学1時間以内のご家庭 ほか	

お問い合わせ | 関西学院大学レジデンスセンター(ホームステイ担当)
TEL: 0798-54-6113 Email: homestay@kwansei.ac.jp



「語学留学だけではない」！ 関学の様々な留学プログラム

留学と聞くと、「英語ができる人が参加するもの」、あるいは「英語を勉強するために英語圏の国に行くもの」とわれていないでしょうか。関西学院大学では、英語に自信がない方でも参加できる「語学留学ではない」留学プログラムも多数ご用意しています。ここでは、春休みに参加できる英語初中級者向け短期(10日間～1ヶ月間)のプログラムをご紹介します。いずれも緊急留学支援金(2023年度派遣)の対象プログラムです。支援金を活用できる最後のチャンスとなりますので、ぜひこの機会にご検討ください。

海外異文化体験セミナー(台湾、ハワイ)

現地の学生や人との交流を通して、異文化を理解し、異なる視点や価値観を得ることを目的とした海外初挑戦の方におすすめのプログラムです。引率者がいますので、安心してご参加いただけます。現地大学の学生と共にSDGsへの取り組みについて学び、調査するプログラム(台湾)と、ボランティアを通じて、実践英会話やハワイ独特の歴史や文化、アロハスピリットを学ぶプログラム(ハワイ)があります。異文化交流の楽しさ、そして時には難しさを感じつつ、現在の自分の立ち位置や、将来を考えるよいきっかけとなることでしょう。



海外フィールドワーク(ベトナム、マレーシア)

現地の学校や孤児院、商業施設などを訪問し、各訪問先でインタビューを行います。それらの調査を通じて、開発途上国の経済・歴史・教育・文化など、様々な視点でその国が抱える課題について考えます。通訳などのサポートしてくれる本学協定校の学生と行動を共にするため、約10日間の短い期間ではありますが、とても親密な関係を築けるのもこのプログラムの魅力です。また、JICA出身の教員が引率するので、海外旅行が初めてでも安心して参加いただけます。将来国際ボランティアプログラムに参加を考える学生にも、ぜひ参加していただきたいプログラムです。



短期海外インターンシップ(オーストラリア、ベトナム、アメリカ)

主に海外の日系企業で約3～4週間、就業体験(インターンシップ)ができるプログラムです。現地企業で働く日本人や現地の方々と一緒に働くことを通じて、視野を広げ、多様性を感じながら「海外で働くこと」を学びます。日本でも多国籍企業が増えている昨今、グローバルな視点をもって仕事をすることが重要となる中、このプログラムでの経験は自分の将来やキャリア設計を考える際にも役立つことと思います。また、受入先は日系企業が多く、日本人社員も周りにいらっしゃいますので、将来海外で働いてみたいけれども今はまだ語学が苦手だという学生にもおすすめのプログラムです。



グローバルPBL(タイ)

担当教員による指導のもと、少数山岳民族を含む多文化共生地域である北部タイの国境地帯を訪れます。現地学生との交流を通じて、地域課題(経済格差、生活インフラや行政サービス、教育、環境保全等)やその取り組みについて知り、PBL*アプローチによる協働学習を行います。本プログラムは上智大学が主催します。上智大学の学生に加え、南山大学の学生も参加予定です。
*PBL:「課題解決型学習」などと訳される勉強法で、学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程で様々な知識を得ていく学習方法

留学体験談インタビュー

短期海外インターンシッププログラムを経験した咲穂さんとそれを支えたご両親に、CIEC職員が、留学を決めた経緯や留学先での学び、帰国後に感じたことなどお話を伺いました。



高橋 咲穂 さん
(文学部文化歴史学科 3年)
2023年2月～3月
短期海外インターンシップで
ベトナムへ留学

写真左からCIEC職員 住岡 尚樹さん、咲穂さん、母・祥子さん、父・正浩さん

一歩踏み出すことで、貴重な経験と自信が得られる

住岡 咲穂さんが留学を決めた経緯を教えてください。

父 私たちが昨年9月に参加した教育懇談会でCIEC職員の方の説明をお伺いしたことがきっかけです。それまでは関学の留学しやすい環境を生かしてほしいと思っていましたが、娘は目を向ける様子がなく、具体的には検討していませんでした。しかし高い英語力も求められず、10月に出願すれば春休み(2～3月)には参加できる海外インターンシップを知り、勧めてみたいと思いました。

母 「語学留学ではない留学」という選択肢があることも初めて知りました。異文化の中での就業体験はキャリア観にも良い影響がありそうという期待も感じましたね。娘には面白そうなプログラムがあったと軽く勧めました。

住岡 もともと留学にはあまり興味がなかったということですが、ご両親に勧められた時、どのように感じましたか。

咲穂 春休みはサークル活動などの予定があったので、最初は参加する気はありませんでした。しかし、大学生の今しかない機会を逃せば後悔するかもしれないと考え直しました。また、将来の目標が見つかっていない自分には何かに挑戦する経験が必要だと感じたのも留学を決めた理由の1つです。

母 私たちが勧めたものの、娘にとっては大きな挑戦。語学力、治安、食生活など数え

切れない不安もありましたが、親として全力で応援したいと思いました。

住岡 勇気を出して決断されたんですね。実際に留学されてみていかがでしたか。

咲穂 文化の違いを感じられたのも楽しかったですし、現地の方と一緒に渡航した学生から刺激を受けました。ルームメイトは、海外でメディア関係の仕事に就くという目標に向かって資格取得にも取り組んでいて、私も将来について真剣に考えるようになりました。

住岡 他の参加者と高め合えるのもこのプログラムの魅力ですね。インターンシップではどのようなことに取り組みましたか？

咲穂 受入先は人材紹介の企業でSNSの更新やブログ記事の作成、電話でベトナム人の求職者の方と話して日本語力を確かめる仕事などをしました。人と一緒に働く以上、他者の立場も考えて動かなければいけないなど、働く上での心構えを学べたのも良かったです。

住岡 現地の方と関わりながら様々な仕事を体験されたんですね。お二人は留学を通じて咲穂さんに何か成長や変化を感じられましたか。

父 留学前は将来のことなど心配していたのですが、自分で目標を見つけて向かっていける強さを持っていることに気づかされました。

母 知らない人に囲まれた慣れない環境でも適応できる柔軟性にも驚かされましたね。娘にとっても自分の力に気づける良い機会だったと思います。

住岡 咲穂さんから留学を迷っている学生へ向けてメッセージをお願いします。

咲穂 語学力に自信がなくても、周りに頼れる人もいますし、自分が思う以上に乗り越えていけます。貴重な経験ばかりの充実した時間が過ごせるので、少しでも興味があればぜひ挑戦してほしいです。

住岡 では最後にご両親から保証人の皆さまへメッセージをお願いします。

母 広く関心を持ち、積極的に情報を得ることは親にできるサポートの1つだと思います。日々勉強や課外活動に明け暮れていると、大学が用意する様々な選択肢に気づけないことも多いのではないのでしょうか。

父 行動に移すかは本人次第ですが、学生時代の経験は決して無駄にならないので、きっかけを作ってあげることが大切だと思います。





～コロナ禍を乗り越えてさらに加速する関西学院の国際教育～

国際交流について現場目線のお話を座談会形式で伺いました

関西学院では、2039年を見据えた超長期ビジョンと長期戦略からなる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」(KGC2039)を策定しています。今回は、長期戦略の共通テーマとして全学で横断して取り組む“国際化”を牽引する国際連携機構事務部の4名の職員が、留学がストップしたコロナ禍での試行錯誤を振り返りつつ、さらなる国際化、真のグローバルユニバーシティ実現に向けて本学がめざすべき方向性について語り合いました。



北川 雄基 Kitagawa Yuki

2018年入職。受入チームに所属し、交換留学生の受入のほか、国際教育寮(有光寮)及びレジデント・アシスタント(RA)担当として寮教育プログラムの検討・実施に携わる。



田 偉辰 Den Ishin

2019年入職。教務チームで国際連携機構が提供する留学生と一般学生が融合する科目と国際交流制度の運営等に携わり、コロナ禍から海外大学生と協働学習のCOIL型科目を開発。中国籍。



姜 安娜 Kang Anna

2015年入職。法学部事務室を経て2018年、国際連携機構事務部へ異動。受入チームにおいて正規留学生の受入体制の対応(入試、奨学金、在留管理、ビザ手配、キャリア支援)などを担当。韓国籍。



星野 優 Hoshino Yu

2020年入職以来、派遣チームに所属。短期語学留学プログラム・交換留学担当を経て現在はCross-Cultural College (CCC)担当。コロナ禍で留学が叶わなかった学生を対象とした各種支援策の実施などに携わる。

全国1位に輝いた関西学院の国際交流・国際教育の魅力

北川 本学は、2018年度に独立行政法人日本学生支援機構が実施した日本人学生留学調査において、「協定等に基づく日本人学生派遣者数」として年間1,833名を記録し、全国1位になりました。これは本学が2014年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業(SGU)に採択されて以来、海外の大学や国際機関との協定に基づいた留学プログラムの充実に注力した結果と言えます。背景には、国際教育・協力センター(CIEC)に加えて、学部・研究科などがそれぞれの特色を活かした留学プログラムを全学で積極的に開発したことがあります。



星野 本学は2023年4月現在58の国と地域に290以上の大学・国際機関とのネットワークを有しています。コロナ禍により留学派遣がストップしましたが、代替措置としてのオンライン国際交流プログラムを検討する際、選択肢が非常に多かったことは、大きな強みだと感じました。

北川 留学の選択肢、幅が広いことは、学生にとって大きなメリットです。国・地域のほか、留学の目的別でも選ぶことができるからです。語学留学、専門分野の勉強、海外ボランティアなど、学生の多様なニーズに対応できるプログラムを約130も準備できているのは、協定校の数の多さによるところだと思います。

姜 協定校が多いと留学の派遣先が増えると同時に、迎える留学生も多様になります。本学には年間約1,500名の留学生が在籍しており、数週間単位での短期留学生、半年～1年間の交換留学生、一般学生と同じカリキュラムで卒業をめざして学ぶ正規留学生など、それぞれに応じた受け皿が整っています。

田 全学生への国際教育と受入留学生の日本語教育を、国際連携機構内の国際教育・日本語教育プログラム室で一括して担っているということも強みだと思います。このような仕組み自体、

全国的にも珍しいのではないのでしょうか。その結果、科目が内容・数ともに充実しています。キャンパスには留学を志す一般学生も、協定校からの留学生も大勢いますが、それぞれのニーズに応じて、柔軟に科目提供ができています。例えば、留学生と一般学生が同じ授業でディスカッションやインタラクティブを行う「融合科目」だけでも60科目以上、留学の事前教育科目、留学プログラム、留学生の日本語教育科目等を合わせると150～200科目を提供しており、提供科目数・受講学生数では、小規模な学部と同規模です。海外大学の関係者から「これだけの科目を国際部門が提供しているんですね」という驚きの声を毎年いただいています。また、本学では原則として全ての留学生に対し、必ず一般学生がバディとなりピアサポートを行います。年間約600人の一般学生がバディ制度に応募しており、改めて関学生の国際交流に対する意欲の高さを認識したと同時に、この規模での国際交流が常時行われ続けていること自体も強みだと思います。

姜 国際化を推進している大学なので、国際交流や留学を志して入学してくれた一般学生も多いと思います。しかし、ただ「いる」だけでは、留学生と一般学生、それぞれにコミュニティができてしまって、混ざり合うことは難しいですね。CIECは、留学生と一般学生の相互交流機会をより多く提供する使命を負っていると考えています。その一環が、融合科目の提供やバディ制度といった、“関係作りを制度化して推進する”取り組みに繋がっています。例えば、来日後の交換留学生の手続きを手伝う「オリエンテーションサポートチーム(OST)」、短期留学生と一緒にプロジェクト学習をしながら日本語のサポートをする「日本語パートナー」、国際教育寮の運営を支援する「レジデント・アシスタント(RA)」などの仕組みです。その他、留学生との交流イベントを企画・運営する「G.S.Network」などもあります。これらの多様な制度を通して、一般学生には留学生と交流する自主性が育まれ、海外留学を志すようになるという好循環も生まれています。



国際交流の様子

北川 さらに「共住型国際教育寮」の開発も進めています。その中の一つ「有光寮」は、全く新しい

形の寮として構想・建設されました。寮での生活をサポートするRAの学生たちが主体的に動いているのも魅力の1つです。RAたちは、日常生活サポートに加え、寮での交流イベント等を多く企画・開催し、一般学生、留学生ともに多様な貴重な経験ができる環境を整えてくれています。

若手職員の取り組みが国際交流・国際教育を推進

姜 関学の国際化を進めていくうえで、私が所属する受入チームで力を入れたのは、留学生(在学生)への情報発信と、国内外からの受験生獲得に向けた入試広報双方のブラッシュアップです。在学する留学生を対象にした情報には、生活の根幹に直結するものも多くあります。例えば、万が一在留カードの期限が切れてしまうと法律違反となり、学生生活が継続できなくなる問題をはらんでいます。また、国内外にいる受験生に「4年間を通じた日本留学」「関学への入学」を決断いただくためには、母国にいる保証人の皆さまにも納得いただくことが不可欠です。私たちは、国外にいる方の視点に立って、不安を払拭すること、本学の魅力や日本留学のメリットを正確に伝える使命があると感じていました。以前、海外留学プログラムの広報で協働した派遣チームでは、留学に前向きな学生に訴求するため、新しい情報発信方法やイベントなどを、学生視点でどんどん展開していました。その手法を受入チームに持ち帰り具体化に向けて取り組みました。



北川 2022年から「有光寮」では、RA企画による寮教育プログラムをいくつか実験的に実施しました。そのひとつ「Faculty visit」は、本学の教員をゲストティーチャーとして寮に招き、特別講義を行ってもらったイベントです。直近では「折り紙のグループワークを通じてコミュニケーションを学ぶ」という講義を商学部の先生に実施いただきました。サポートを担うRAの学生たちのほとんどが留学生と交流した経験がない状況からのスタート

職員座談会のフルバージョンは、
Kwansei Grand Challenge 2039 Webサイトをご覧ください。



KGC2039

検索

でしたが、彼らがとても頑張ってくれたおかげでいい活動ができました。学内外の協力を得ながらさらなる拡充を図るため、RAの採用選考、研修も充実させたいと思います。国際教育寮は学生交流の重要な場として、キャンパスの国際化に貢献できると考えています。



有光寮イベントの様子

星野 コロナ禍が始まった2020年から約2年半、学生は留学に行けませんでした。状況が落ち着いたときには、コロナ禍に入学した学生は3・4年生になっており、留学すると就職活動や卒業計画に大きな影響が出てしまう状況になっていました。このような中で、留学を諦めてしまいうような学生の悩みや負担を軽減するため、留学の影響で在学年数が伸びても、留学期間に準じて学費を相殺できる「海外留学特別奨学金」という、新たな奨学金制度を2021年度末に設立しました。この奨学金に関しては、学生にしっかりと周知した上で、関心を持った学生に対しては、卒業計画や費用等それぞれに適した相談や案内を個別に行うことを部署全体として取り組んできました。さらに、2022年の夏頃、急激な円安と物価高により、留学費用がそれまでと比べて約1.5倍かかるという事態も起きました。学生の経済的負担を減らすため、奨学金とは別に「緊急留学支援金」を創設するなど、前例のない事態に部署全体で連携して取り組みました。

田 私はCOIL型教育に注力しました。COILとは「Collaborative Online International Learning」の略語ですが、文字通りオンラインでの国際協働学習であり、コロナ禍において、世界各国で重視されるようになった教育手法です。COIL型科目の開発は、まさに教員と職員の協働作業です。私たち職員は、協定校の担当者と連絡を取り合い、開講時期、授業時間数といった基礎的な部分から、規則についてまで幅広く話し合います。一方、教員側も、専門領域やテーマに繋がらないと科目の開発ができないので、双方の教員間に共通するテーマで協働学習する授業をデザインしてきました。キャンパスにいながら授業を通じて海外の学生と交流や協働学習ができるというメリットは大きく、対面授業を100%再開した今でも、いくつかのCOIL型科目の開講が続いています。

留学がストップしたコロナ禍を乗り越えて

星野 コロナが少し落ち着き留学派遣が再開した時、基準作りで苦労しました。と言いますのも、社会情勢的にはまだ手放しに「海外に行っていけますよ」とは言えない部分があったからです。大学が提供するプログラムである以上、一定の安全性を担保する必要があります。ワクチン接種と現地でのコロナ対策を基準に、1大学ずつ確認することに加え、日々変化する各国の水際対策を出発ギリギリまで調べていました。学生の立場からすると、約1年前に選考を通過し留学先は決まっているのに、実際に行けるかが直前まで分からない状況はとても辛いことだったと思います。残念ながら基準に合わずに行けなかった学生もいました。本当に手探りの状況でした。



姜 一方で、本学で4年間学び学位取得をめざす正規留学生も、3年生になるまで一度も来日できない状況になっており、私たちも非常に心苦しい思いをしました。日本人学生も含めて全面オンライン授業だった時期はまだしも、日本国内での対面授業が徐々に再開しつつあるのにビザが発給されず、留学生だけが入国できないという時期がしばらく続きました。そのような留学生たちに、関学生としての帰属意識を持って欲しいという思いから、「今は離れているけれど、待っています」というメッセージを動画にして送ることにしました。完成した動画はたくさんの人に視聴してもらうことができ、留学生からは「自分のことを待ってくださると感じました」「早くキャンパスを実際に見てみたい」というコメントが寄せられました。他にも、オンライン京都パーチャルツアーの実施、メンタルが低下気味の留学生にチームで分担して電話するなど、留学生ケアに取り組まれました。

北川 私が非常に悩ましかったのは、寮内イベントにおける飲食制限ですね。RAたちには、「親睦

イベントを設計しようとしているのに飲食をはじめとする制限ばかり…」という葛藤があったと思います。このような中でも、野外で距離を取って黙食にする、ミニゲームや自己紹介に時間を割くなどの工夫をし、月に1回のイベントを絶やさずに開催できたのは、RAたちが主体的に提案してくれた結果です。彼らには心から感謝しています。

真のグローバルユニバーシティに向けた関学の挑戦

田 CIECは学生にとって「安心」「ワクワク」と「学ぶ意欲」を提供する場所であり続けたいと思っています。CIECは国際教育を日本人学生にも留学生にも提供する最前線であり、私たちもその教育に携わる一員です。海外に行こうとする日本人学生と、日本にきた留学生には第一に「安心」が必要です。「安心」には様々な要素があり、例えば質の向上、危機管理、卒業後の進路、といった安心もあります。また、私たちが提供する国際教育コンテンツで「学生にワクワク楽しんで学んで欲しい」という思いがあります。そのためには、質の高い受入体制および派遣プログラムと、国際基準の科目の提供が不可欠です。そして、「学ぶ意欲」というのは、留学の受入も派遣も授業も、結局は学生が何かを身につけるプロセスで「主体的にこうしたい」という意欲を高めることによってより有意義になっていくということです。この意欲を高める仕掛けを学内のいろいろなところで用意できれば、真のグローバルキャンパスとしての「場」の形成が進み、それがさらに発展した姿として真のグローバルユニバーシティの実現にも繋がっていくのではないのでしょうか。

北川 留学って誰かに強制されて行くものではないですよね。自分の意思で最後まで責任を持ってやり遂げないといけないのが留学です。でも、それを1人で全てやりきるにはかなりのエネルギーが必要です。しんどいこともあるだろうし、準備とか、現地トラブルとか、いろいろあると思うんです。CIECは、そういった不安や懸念を少しでも解消してあげられるような場でありたいと思っていますので、今後も「学生に寄り添う」ことを意識して働きたいです。

姜 私たちは、学生の4年間の学びの支援を主に担っていますが、卒業後にどのような動きをするかも意識して、支援に携わるべきだと考えています。海外留学を経験した学生、学内で異文化交流を経験した学生、本学で学んだ外国人留学生が、卒業後、グローバルな感覚を持って社会の様々な場面に出ていき、それぞれの場所で貢献

することで、「関西学院はこういう世界市民を輩出するんだ」というある種のブランドを社会に伝えていくことが必要だと思っています。世界での活躍はもちろん、変化を好まない日本社会においても国際感覚を持つインパクトのある存在になって欲しいです。また、少子化が急激に進む日本では、学生確保のため、大学の特長をより強く打ち出していくことが求められています。本学であれば、国際化がその一つになることは間違いありません。そのため、「内なる国際化=キャンパス内での国際交流」をさらに整備・推進する必要性を感じています。これらを実現するには多くの留学生の受入や支援体制の充実が不可欠で、その重要性を学内関係者とも共有することが大事です。そしてこのような取り組みは、本学だけでなく、今後の日本社会においても意義のある働きに繋がると感じます。優秀な留学生を受け入れていこうという本学の姿勢を、具体的な支援や仕組みとして示すことができようやく真のグローバルキャンパスの実現が進んでいくと考えています。

星野 今後の課題として関学の特長を強く打ち出すために、スクールモットー“Mastery for Service”を体現したより多くの海外への留学プログラムを作りたいと考えます。また今あるプログラムにも、スクールモットーに密接な繋がりを持つものもあるので、広報でも少しアピールができればと思います。「関学ならではの留学プログラム」を提供することが、求められていると感じています。

姜 「関学ならではの」という意味で、このスクールモットーは大きな役割を果たしていますよね。私は関学出身ですが、受験生の時に見た広報誌などでも、様々なフィールドで頑張っている先輩たちが、「キリスト教の精神を持って頑張っています」というコメントを寄せていて、いかにこのスクールモットーが浸透しているかを感じていました。

田 “Mastery for Service”は、MasteryとServiceという2つの単語の構成なので、「単なるサービス精神だけではない」というのが私の意識しているところです。重きを置いているのはMastery、つまり「磨く」ということです。大学はそもそも自分を磨くところで、“Mastery for Service”の意味としても、「自分を磨くことによって人のためになる、人の役に立つ」と理解をしており、私たち事務職員が日々担う業務の中でも実践できる場所があると思っています。

姜 自己の研鑽、磨くためのモチベーションが、

人に仕えるため、つまり自分だけで終わらない。そしてそれが循環する。卒業生へのインタビューなどからも「関学のMastery for Serviceを背負っている」という潜在意識を感じることがあります。

北川 皆さんがおっしゃるように、“Mastery for Service”は様々なところにアプライできるスクールモットーですよ。プログラム開発に話を戻すと、いかに質を向上させ、またその質を保証するためには、達成度評価をどのように行っていくのかが大切になってくると思います。達成度の評価については、これまでも試行錯誤しながら進めてきましたが、単に外部テストで一面だけを測って終わり、という訳にはいきません。評価方法や基準を確立できれば、プログラムの見直しや改善もやりやすくなるはず。これは大学全体で検討・実施していくべきテーマだと思いますので、各部署、学部・研究科との連携がこれまで以上に大切になると考えています。



田 グローバルキャンパスの実現は、単なる受入・派遣ではなく、全学的な循環サイクルとして捉えることが必要です。留学生受入に力を入れ、優秀な学生を確保できるようになれば、英語開講の科目増加などの必要性が高まります。そうすると、学内施設、クラブやサークルでも、従来の慣習を変えざるを得なくなります。そういう好循環ができあがれば、留学生、一般学生ともに質の高

い学生が本学に集まり、真のグローバルキャンパスが形成されていくのではないのでしょうか。

星野 確かにそうですね。今回お話をしている、国際化といえば海外派遣に意識が偏りがちですが、真のグローバルキャンパスの実現には、たくさんの留学生が学内にいることが重要で、それが関学生にとっての国際化の第一歩、留学に意識が向かう第一歩になるということを改めて感じました。



学内イベントの様子

姜 留学生と日本人学生の出会い創出に一層注力が必要だと思います。コロナが明けて、多くの留学生がキャンパスに戻ると同時に、一般学生からの交流に対する意欲が高まっていることを日々感じています。現在も様々な機会を設定していますが、さらに情報発信をブラッシュアップして、巻き込めない学生にもアプローチしたいと考えています。2023年春にフジタ・グローバルラウンジをリニューアルしましたが、こも交流拠点としてさらに活用して「日常に国際交流のある」環境を整備していきたいですね。



星明りから「宇宙の夜明け」を探る 赤外線天文学の世界。

現在、私は赤外線を通して初期の天体を探る研究を行っています。この研究の始まりは、大学院生時代に遡ります。学部生の頃から物理とものづくりが好きだった私は、宇宙の理論を学ぶだけではなく、自然現象を自分の作った装置と自分の目で観測したいと考えて大学院に進学しました。そこで偶然、「赤外線を使って宇宙で最初の天体が発した光を観測する」ことをめざしている研究室の存在を知ります。この出会いが、赤外線天文学の世界に没入する人生の転機となりました。

赤外線天文学とは、赤外線観測によって天体を調べる学問です。130億年以上前、宇宙に初めて誕生した原始銀河は光（紫外線）を発しました。光の波は、宇宙の膨張により波長が10倍以上引き延ばされて赤外線となり、天空から降り注いでいます。宇宙で最初に生まれた遙か彼方の星々は、地上最大の望遠鏡でも捉えることはできません。しかし、赤外線があつまってきた「宇宙背景放射」と呼ばれる光であれば、大気圏外で観測することが可能となるのです。大学院生時代に研究室で行われていた実験は、まさに「ロケットを飛ばして望遠鏡を大気圏外へ運び、宇宙背景放射を観測する」というものでした。もともとは重力理論や素粒子物理学に興味があった私ですが、研究室を通じて赤外線天文学の魅力に惹かれるように。現在も、宇宙のはじまりの痕跡を求めて研究を行っています。

宇宙研究、そして自分自身の可能性を 広げてきたのは絶えないチャレンジ精神。

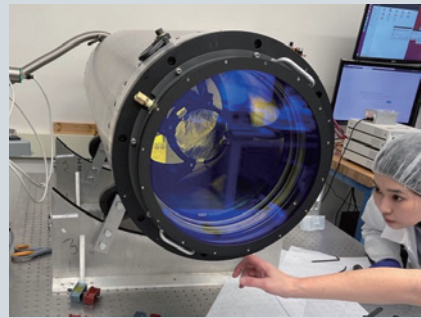
大学院卒業後は、新技術事業団（現：国立研究開発法人科学技術振興機構）が行っていたプロジェクトに応募。プロジェクトを通じて配属された通信総合研究所（現：国立研究開発法人情報通信研究機構）で「赤外線の技術を活用して新しい光源を作る」という実験に参加しました。赤外線に特化した任務でしたが、天文学とは全く異なる分野への挑戦はスキルの向上と広い視野の獲得につながり、また充実した研究成果も得られてとても良い経験になったと感じています。

その後、通信総合研究所で磨いた技術を活用するために赤外線天文学の本場であるアメリカへ。当時、NASAはヨーロッパ宇宙機関と共同して「ハーシェル宇宙天文台」と呼ばれる赤外線宇宙望遠鏡計画を進めていました。周波数の低い光で、宇宙の初期の銀河や星の源流を探するというプロジェクトです。そこで、私がかつて開発に携わった「赤外線の新しい光源」が活用できるとわかり、これに関わる道を模索するように。

MATSUURA SHUJI
松浦 周二 理学部 教授

CLOSE UP RESEARCH

関西学院の学びを支える教育者であり、また飽くなき探究心を持ち続ける研究者でもある
教授・教員陣の最前線をレポートする。



天体観測ドーム
VR360°動画の
ご視聴はこちらから



カリフォルニア工科大学で関連実績を出しているグループに直談判して研究員としてプロジェクトに参加したこともあります。他にはないような素晴らしい研究を経験できたのは、分野も国境も飛び越えてあらゆることに挑戦

する姿勢があったから。数々の経験は、私自身の可能性を広げ、そして世界的な宇宙研究の発展に寄与してきたと自負しています。

飽くなき探究心が宇宙を知る手掛かりに。 フィールドを変えて、さらなる挑戦が続く。

赤外線の新光源を開発するプロジェクトに参加後、そのままアメリカで過ごそうと考えていた私のもとに、大学院でお世話になった教授が訪ねてきました。「JAXAの宇宙科学研究所で新しい衛星を開発しよう」。恩師の言葉が、宇宙科学研究所に就職するきっかけとなりました。

宇宙科学研究所では、日本最初の赤外線天文衛星「あかり(ASTRO-F)」のプロジェクトに参加。2006年に衛星の打ち上げを行いました。赤外線を使って宇宙の全天(あらゆる方向)の地図を作るという非常にスケールの大きい計画です。しかし、それ以上に私がやりたかったのが、やはり宇宙で最初の星明りを見ることでし

た。そこで立ち上げたのが、ロケット実験「CIBER」という新たなプロジェクトです。大学院時代の研究と同様に、小さな赤外線望遠鏡をNASAのロケットにのせて打ち上げ、宇宙背景放射の正確な観測を行いました。宇宙科学研究所に所属しているうちに計4回の打ち上げに成功し、「CIBERで発見した放射光の多くは銀河間空間に浮遊する星々によるものだろう」という結果が得られました。しかし、観測した光が初期天体から発せられたものだという確証は得られませんでした。結論付けるためには、さらに高精密な測定が必要だったので。手がかりを掴むために、教授となった現在は学生たちとロケット実験「CIBER-2」を実施。装置が壊れるとい

う失敗も経験しましたが、修理を行って挑戦を続ければ、今度こそ成果が出るだろうと期待しています。

また、惑星探査機「ソーラー電力セイル(宇宙ヨット)」によって木星軌道よりさらに遠方の宇宙を探索する「オケアノス計画」も、これまでに進めてきたプログラムの1つです。ソーラー電力セイルとは、セイル(帆)に太陽の光を受けて宇宙航行に必要な電力を生み出す装置のこ

宇宙研究の中核を担うために。 研究者育成を通して、未知の解明に寄与していく。

関西学院大学で教育者としての道をスタートさせたのは、若者の感性に触れたいと思ったから。学部生たちに刺激を受けながら、日々研究に取り組んでいます。現在、本学の神戸三田キャンパスで推進しているのが、宇宙研究の活性化です。理工学部の平賀教授はX線天文衛星、瀬田教授は南極テラヘルツ望遠鏡でそれぞれ宇宙を観測する計画を進めているように、学内ではすでに高いレベルの研究が行われています。今後は工学や環境応用化学など、他領域の研究室とも結託して、宇宙研究の中核を担う研究機関をめざしていきたいです。

宇宙研究を盛り上げるには、我々研究者だけではなく、学生や一般の方に宇宙の魅力を知ってもらうことも欠かせません。2022年にⅧ号館に設けられた天体観測ドームは、皆さんの興味を掻き立てるためにふさわしい場所であるといえるでしょう。望遠鏡があるだけで、学生たちが主体的に天文学を学び始めたり、自ら観測装置を作りだしたり、非常に高い教育効果が得られます。これまで、あらゆる方に気軽に宇宙に触れてもらうために、関西学院高等部の生徒に向けた体験会や周辺市民を招いた七夕の天体観測イベントなど、様々な催しを開いてきました。ゆくゆくは「開かれた望遠鏡」として、本学の宇宙研究のシンボルにしていきたいと考えています。

宇宙研究の面白さは、未知の事象が長い時間をかけて少しずつ解明されていくところにあります。1つわかって、また別の疑問が浮かんでくる。興味が無限に広がっていくんです。追究すべき謎はまだまだあるので、研究を受け継ぐ人材の育成も、今後の大切な目標

と。活用すれば、木星のそばにあるトロヤ群という小惑星まで赤外線望遠鏡を運ぶことができます。宇宙科学研究所でも一度、何十メートルにもなる帆をもつ「オケアノス」を宇宙に飛ばそうとしましたが、実現には至りませんでした。今は帆を10メートルほどに縮めた小型衛星で実験を行うために、当時の仲間たちと試行錯誤しています。

です。これまでずっと「他の人がやっていないことをやりたい」という想いで研究を進めてきました。実際には、私たちが行っている赤外線の宇宙背景放射を観測する実験方法は、世界中どこを探しても例がありません。挑戦には失敗が付き物で、周囲と意見が食い違うことや回り道をすることもたくさんありました。しかし、様々な刺激を受けたことが間違いなく現在の糧になっています。本学の学生たちにも、研究に限らず多くのことを経験し、困難を乗り越えた先にある喜びを知ってほしいです。



PROFILE 松浦 周二 理学部 教授

名古屋大学大学院を修了後、新技術開発事業団科学技術特別研究員、米国カリフォルニア工科大学研究員、宇宙研助手を経て、JAXA宇宙科学研究所に勤務。赤外線天文衛星「あかり」や小惑星探査機「はやぶさ2」の打上げ計画に参加し、ロケット実験CIBER-2の日本側代表として計画を遂行した。2015年より関西学院大学 理工学部 物理学科(現:理学部 物理・宇宙学科)の教授に就任。独自の研究実績を通じて、CIBER-2による宇宙背景放射・原始銀河の観測に取り組む。

後援会報告

2023年度 関西学院後援会代議員会記録

第1部 議長:重久 庄児 会長 司会:江田 政亮 副会長

I 2022年度 事業報告に関する件

田中庶務常務役員より、2022年度後援会事業(P.38参照)に基づく報告があり、これを承認。

II 2022年度 会計報告および会計監査に関する件

狩野会計常務役員から2022年度後援会決算書(P.39参照)に基づく会計報告。続いて、石塚会計監査常務役員の監査報告があり、これを承認。

III 2023年度 新幹事選出に関する件

選出方法について議長に一任され、江田副会長より新幹事候補者名が発表され、これを承認。

IV 2023年度 新常務役員選出に関する件

幹事の中から新常務役員の選出を行い、これを承認。

V 2023年度 新常務役員紹介

江田副会長より、幹事会で選出された新常務役員の紹介があった。新常務役員を代表して加地新会長より挨拶。

〈以降の議題は後援会規約第6条により加地 正和 新会長が議長を務めた〉

VI 2023年度 事業に関する件

柴沼庶務常務役員から2023年度後援会事業計画(P.38参照)に基づく説明があり、これを承認。

VII 2023年度 予算に関する件

金丸会計常務役員から2023年度後援会事業予算(P.40参照)に基づく説明があり、これを承認。

第2部 司会:河野 淳 副会長

来賓代表ご挨拶

村上 一平 理事長

学事報告

関西学院大学、聖和短期大学、関西学院高等部、関西学院中学部、関西学院初等部、関西学院千里国際中等部・高等部

感謝状贈呈

中道院長より、今回常務役員を退任された、重久 庄児氏、石塚 英輔氏、狩野 義仁氏、田中 深佳子氏に感謝のプラークおよび記念品を贈呈。重久前会長より退任の挨拶。

第3部 司会:河野 淳 副会長

ご来賓紹介

食前の祈祷

打桶 啓史 宗教総主事

乾杯

中道 基夫 院長

晚餐

懇談

校歌「空の翼」

閉会の辞

2022年度 後援会事業

開催日	事業
4月 1日(金)	・「後援会通信」第62号発行
4月 1日(金)	・大学入学式 ※規模縮小開催のため、父母歓迎企画は中止 ①13:00 総・教・理・工・生・建 ② 9:00 神・社・法・人・国 ③13:00 文・経・商
2日(土)	
4月15日(金)	・第1回 常務役員会 於: 関西学院会館
4~5月	・父母歓迎「Let's go to the Stadium」 於: HP上でオンライン配信 ・父母歓迎「Kwansei Gakuin Welcome Concert」吹奏楽部コンサート
5月28日(土)	・関西学院大学 高知県保護者交流会 於: ホテル日航高知旭ロイヤル
6月 4日(土)	・関西学院大学 北陸地区教育懇談会 於: ANAクラウンプラザホテル金沢
6月18日(土)	・第2回 常務役員会 於: 宝塚ホテル ・第1回 幹事会 ・2022年度代議員会
7月 2日(土)	・関西学院大学 福井県保護者交流会 於: ザ・グランユアーズフクイ
7月 9日(土)	・関西学院大学 九州・沖縄地区教育懇談会 於: ソラリア西鉄ホテル博多
7月15日(金)	・第3回 常務役員会 於: 大阪市内
7月23日(土)	・関西学院大学 山口県保護者交流会 於: 山口グランドホテル
8月 6日(土)	・関西学院大学 山陰地区保護者交流会 於: ANAクラウンプラザホテル米子
8月13日(土)	・関西学院大学 新潟県保護者交流会 於: ホテルオークラ新潟
9月 3日(土)	・関西学院大学 教育懇談会 於: 西宮上ヶ原キャンパス
9月24日(土)	・関西学院大学 教育懇談会 於: 神戸三田キャンパス
9月25日(日)	・聖和短期大学 教育懇談会 於: 西宮聖和キャンパス
10月 1日(土)	・「後援会通信」第63号発行
10月 1日(土)	・第4回 常務役員会 於: 関西学院会館 ・第2回 幹事会
10月10日(月)	・父母歓迎「Let's go to the Stadium」 於: [※中止]出雲大社周辺 (体育会陸上競技部)
10月15日(土)	・関西学院大学 大分県保護者交流会 於: レンブランドホテル大分
10月29日(土)	・関西学院大学 長崎県保護者交流会 於: ホテルニュー長崎

開催日	事業
11月 5日(土)	・関西学院大学 沖縄県保護者交流会 於: ヒルトン沖縄北谷リゾート
11月12日(土)	・関西学院大学 中国地区教育懇談会 於: ホテルグランヴィア広島
11月13日(日)	・ホームカミングデー 於: 西宮上ヶ原キャンパス
11月18日(金)	・第5回 常務役員会 於: 大阪市内
11月26日(土)	・関西学院大学 北関東地区保護者交流会 於: ホテルラシーネ新前橋
12月20日(火)	・関西学院クリスマスatザ・シンフォニーホール 於: ザ・シンフォニーホール (学院・後援会・同窓会共催)
2023年	
1月10日(火)	・後援会表彰 関西学院高等部 於: 高中部礼拝堂
1月21日(土)	・第6回 常務役員会 於: 関西学院会館
2月18日(土)	・関西学院大学 富山県保護者交流会 於: オークスカルパークホテル富山
2月25日(土)	・関西学院大学 和歌山県保護者交流会 於: ホテルグランヴィア和歌山
2月25日(土)	・父母歓迎「Kwansei Gakuin Welcome Concert」 於: 静岡音楽館AOI (グリーンクラブ静岡演奏会)
2月27日(月)	・後援会表彰 関西学院初等部 於: 初等部ベーツチャペル
3月 3日(金)	・後援会表彰 関西学院千里国際中等部・高等部 於: 千里国際キャンパス
3月 4日(土)	・後援会表彰 関西学院大学 於: 中央講堂(125周年記念講堂)
3月14日(火)	・後援会表彰 関西学院中学部 於: 高中部礼拝堂
3月25日(土)	・第7回 常務役員会 於: 関西学院会館 ・第3回 幹事会

2023年度 後援会事業計画

開催日	2023年度 実施事業
4月 1日(土)	・大学入学式 ①13:00 総・教・理・工・生・建 ② 9:00 神・社・法・人 ③13:00 文・経・商
3日(月)	
4月 3日(月)	・「後援会通信」第64号発行
4月15日(土)	・父母歓迎「Let's go to the Stadium」 於: 阪神甲子園球場 16日(日) 硬式野球部 対 関西大学
4月21日(金)	・第1回 常務役員会 於: 大阪市内
4月22日(土)	・父母歓迎「Let's go to the Stadium」 於: 神戸市立王子スタジアム アメリカンフットボール部 対 日本大学
4月23日(日)	・父母歓迎「Kwansei Gakuin Welcome Concert」吹奏楽部コンサート 於: 中央講堂(125周年記念講堂)
6月 3日(土)	・関西学院大学 東海地区教育懇談会 於: ヒルトン名古屋
6月10日(土)	・関西学院大学 宮崎県保護者交流会 於: ニューウェルシティ宮崎
6月17日(土)	・関西学院大学 東北地区 於: 仙台国際ホテル (青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島県)保護者交流会
6月24日(土)	・第2回 常務役員会 於: 宝塚ホテル ・第1回 幹事会 ・2023年度代議員会
7月 8日(土)	・関西学院大学 熊本県保護者交流会 於: ANAクラウンプラザホテル熊本ニューシティ
7月14日(金)	・第3回 常務役員会 於: 大阪市内
7月22日(土)	・関西学院大学 北海道保護者交流会 於: 札幌グランドホテル
7月29日(土)	・関西学院大学 徳島・兵庫県淡路島地区保護者交流会 於: JR ホテルクレメント徳島
8月 5日(土)	・関西学院大学 静岡県保護者交流会 於: グランディエール フクトーカイ
8月26日(土)	・関西学院大学 山陰地区(鳥根・鳥取県)保護者交流会 於: サンラボーむらくも
9月 2日(土)	・関西学院大学 教育懇談会 於: 西宮上ヶ原キャンパス
9月16日(土)	・関西学院大学 三重県保護者交流会 於: プラザ洞津
9月24日(日)	・聖和短期大学 教育懇談会 於: 西宮聖和キャンパス
9月30日(土)	・関西学院大学 教育懇談会 於: 神戸三田キャンパス
8・9月頃(未定)	・聖和短期大学 地区別教育懇談会(開催未定) 於: 未定

開催日	2023年度 実施事業
10月 2日(月)	・「後援会通信」第65号発行
10月14日(土)	・第4回 常務役員会 於: 関西学院会館 ・第2回 幹事会
10月21日(土)	・関西学院大学 関東・東北・甲信越地区教育懇談会 於: ステーションコンファレンス東京
10月28日(土)	・関西学院大学 滋賀県保護者交流会 於: クサツエストピアホテル
11月 4日(土)	・関西学院大学 長野県保護者交流会 於: ホテルブエナビスタ
11月11日(土)	・関西学院大学 四国地区教育懇談会 於: ANA クラウンプラザホテル松山
11月19日(日)	・ホームカミングデー 於: 西宮上ヶ原キャンパス
11月19日(日)	・就職・留学ガイダンス 於: G 号館 101 教室
11月24日(金)	・第5回 常務役員会 於: 大阪市内
12月 2日(土)	・関西学院大学 鹿児島県保護者交流会 於: 城山ホテル鹿児島
12月16日(土)	・関西学院大学 北関東地区(栃木・群馬県)保護者交流会 於: ライトキューブ宇都宮
12月19日(火)	・関西学院クリスマスatザ・シンフォニーホール 於: ザ・シンフォニーホール (学院・後援会・同窓会共催)
2024年	
1月20日(土)	・第6回 常務役員会 於: 関西学院会館
3月 2日(土)	・後援会表彰 関西学院大学 於: 中央講堂(125周年記念講堂)
3月16日(土)	・父母歓迎企画「Kwansei Gakuin Welcome Concert」 於: 熊本県立劇場コンサートホール (吹奏楽部熊本コンサート)
3月30日(土)	・第7回 常務役員会 於: 関西学院会館 ・第3回 幹事会
2・3月(未定)	・後援会表彰 聖和短期大学、関西学院高等部、関西学院中学部、関西学院初等部、関西学院千里国際中等部・高等部 於: 未定

事業	援助
<ul style="list-style-type: none"> 新入生父母歓迎記念事業 新入生父母歓迎記念品作製 新入生父母歓迎プログラム Let's go to the Stadium 卒業生父母記念事業記念品作製 「後援会通信」発行 	<ul style="list-style-type: none"> 後援会Webサイト運営 後援会表彰 就職・留学ガイダンス(大学保証人向け) 後援会奨学金 保護者交流会開催
<ul style="list-style-type: none"> 海外受入派遣活動援助 広報活動援助 奨学援助 学生教育研究災害傷害保険援助 関西学院クリスマスatザ・シンフォニーホール援助 	



代議員会



感謝状贈呈

後援会報告

2022年度 関西学院後援会 決算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)			(単位：円)		
収入の部	予算額	決算額	支出の部	予算額	決算額
会費収入(人数は決算人数)	150,390,000	149,407,000	事業費	160,700,000	118,213,701
関西学院大学 23,172名分 @6,000円	140,004,000	139,029,000	教育懇談会、交流会	26,000,000	19,582,643
聖和短期大学 238名分 @6,000円	1,434,000	1,425,000	学生・生徒の活動・行事援助	18,900,000	12,985,000
関西学院高等部 1,150名分 @3,000円	3,477,000	3,451,000	援助(課外活動)	9,000,000	3,006,000
関西学院中学部 739名分 @3,000円	2,223,000	2,218,000	援助(各部学祭・文化祭)	5,500,000	4,500,000
関西学院初等部 540名分 @3,000円	1,623,000	1,620,000	援助(その他)	4,400,000	5,479,000
関西学院千里国際高等部 282名分 @3,000円	855,000	847,000	国際交流振興援助費	2,500,000	200,000
関西学院千里国際中等部 225名分 @3,000円	651,000	676,000	教育研究活動援助	2,000,000	775,271
前期末未収入金収入	0	3,000	就職活動援助	3,000,000	853,600
卒業生家族の会 46名分 @3,000円	123,000	138,000	海外受入派遣活動援助(大学)	7,000,000	1,456,400
関西学院積立金取崩	0	0	後援会表彰	9,000,000	8,649,653
前年度繰越金	66,953,332	66,953,332	広報活動援助費	2,000,000	1,010,000
合計	217,343,332	216,360,332	奨学援助	19,300,000	9,721,000
			学災保援助費	6,000,000	6,000,000
			卒業記念品作製料	9,000,000	8,680,000
			入学記念品作製料	14,000,000	10,307,550
			新入会員歓迎企画	4,000,000	3,826,420
			クリスマス援助費	3,000,000	3,000,000
			代議員会	8,000,000	6,096,693
			郵送費(成績・通信等)	2,000,000	2,000,000
			後援会通信	22,500,000	21,600,751
			校歌CD制作費	0	0
			後援会HP運営費	2,500,000	1,468,720
			幹事会・常務役員会	3,500,000	3,329,986
			積立金	50,000,000	50,000,000
			事務費	1,000,000	932,474
			予備費	2,020,332	249,275
			合計	217,220,332	172,725,436

2022年度 関西学院後援会財産目録 (2023年3月31日現在) (単位：円)

経常会計 次年度繰越金	43,634,896円
特別会計(積立金)繰越金(関西学院財務部預り金)	70,005,294円
(内訳)積立金	20,005,093円
預金利息	201円
積立金組入額	50,000,000円

特別会計 決算書 (2022.4.1～2023.3.31) (単位：円)

収入	金額	支出	金額
運用収入	201	支出	0
組入額	50,000,000		
期首残高	20,005,093	期末残高	70,005,294
合計	70,005,294	合計	70,005,294

2023年度 関西学院後援会 常務役員、幹事および代議員一覧

常務役員	幹事	西英明	堀入 正章	青木 康広	岸 晴彦	渡辺 幸嗣	立岩 菜摘	田伏 備浩	[中学部]	代議員	小川 大輔	[社会学部]
[会長] 加地 正和	[神学部] 後藤 真	白野 秀継	村田 信雄	五十嵐 光博	岩間 俊哉	原田 達二	青野 英彦	杉本 泰子	[文学部] 山本 健司	本郷 亮	塚本 理恵	有泉 剛
[副会長] 古澤 百代	富岡 修	三浦 義民	中村 尚子	入江 徹	桑田 大介	松村 好	栗原 圭介	辰馬 清	[理学部] 伊藤 博之	伊藤 博之	吉田 道男	山岸 以知子
江田 政亮	戸田 奈都子	神前 秀樹	長谷川 由里子	中西 良明	[理工学部] 桑田 大介	吉田 昌広	林 路人	飯島 健司	[国際学部] 中野 健一	高畑 祥示	中屋 絵美	山岸 以知子
河野 淳	吉田 哲郎	高安 慎一	中村 吉幸	安藤 勝康	青柳 文浩	吉田 昌広	林 路人	飯島 健司	[初等部] 中野 健一	中屋 絵美	千葉 知子	山岸 以知子
[会計] 金丸 康治	尾崎 八寿子	川畑 真希	紀平 昌之	石原 伸治	渡部 剛	東田 文太郎	渡部 総一郎	白石 園子	[国際学部] 中野 健一	中屋 絵美	千葉 知子	山岸 以知子
[会計監査] 藤沢 利恵	寺前 清和	山本 雅彦	辻尾 一仁	長 浩紀	麻生 智正	山内 幸治	藤井 俊成	山内 幸治	[国際学部] 中野 健一	中屋 絵美	千葉 知子	山岸 以知子
玉田 明人	柴沼 剛	前田 忠嗣	松浦 徹	行俊 美和	伊藤 友啓	大西 敏晴	南川 宗督	谷川 哲一	[理学部] 伊藤 博之	吉田 道男	中屋 絵美	山岸 以知子
[庶務] 豊田 正明	石本 明久	大竹 義人	磯野 裕吉	谷川 哲一	宮内 秀夫	雷尾 太郎	山崎 邦正	碓武 宏章	[工学部] 山崎 邦正	山崎 邦正	碓武 宏章	山岸 以知子
青山 まゆみ	酒井 三	辰馬 美穂	小野 幸彦	沖 敏男	永井 康晴	福田 陽介	中村 尚子	長谷川 由里子	[国際学部] 中野 健一	中野 健一	吉田 道男	山岸 以知子

2023年度 関西学院後援会 予算

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)			(単位：円)		
収入の部	23年度予算額	22年度決算額	支出の部	23年度予算額	22年度決算額
会費収入	152,166,000	149,407,000	事業費	170,100,000	118,213,701
関西学院大学 23,656名分 @6,000円	141,936,000	139,029,000	教育懇談会、交流会	27,500,000	19,582,643
聖和短期大学 240名分 @6,000円	1,440,000	1,425,000	学生・生徒の活動・行事援助	18,900,000	12,985,000
関西学院高等部 1,156名分 @3,000円	3,468,000	3,451,000	援助(課外活動)	9,000,000	3,006,000
関西学院中学部 720名分 @3,000円	2,160,000	2,218,000	援助(各部学祭・文化祭)	5,500,000	4,500,000
関西学院初等部 540名分 @3,000円	1,620,000	1,620,000	援助(その他)	4,400,000	5,479,000
千里国際高等部 284名分 @3,000円	852,000	847,000	国際交流振興援助費	2,500,000	200,000
千里国際中等部 205名分 @3,000円	615,000	676,000	教育研究活動援助	2,000,000	775,271
前期末未収入金収入	0	3,000	就職活動援助	3,000,000	853,600
卒業生家族の会 25名分 @3,000円	75,000	138,000	海外受入派遣活動援助(大学)	7,000,000	1,456,400
			後援会表彰	9,000,000	8,649,653
			広報活動援助費	2,000,000	1,010,000
			奨学援助	19,300,000	9,721,000
			学災保援助費	5,900,000	6,000,000
			卒業記念品作製料	9,000,000	8,680,000
			入学記念品作製料	13,000,000	10,307,550
			新入会員歓迎企画	5,000,000	3,826,420
			クリスマス援助費	3,000,000	3,000,000
			代議員会	8,000,000	6,096,693
			郵送費(成績)	2,000,000	2,000,000
			後援会通信	30,500,000	21,600,751
			後援会HP運営費	2,500,000	1,468,720
			幹事会・常務役員会	3,500,000	3,329,986
			積立金	10,000,000	50,000,000
			事務費	1,000,000	932,474
			予備費	11,200,896	249,275
			次年度繰越金	0	43,634,896
			合計	195,800,896	216,360,332

2023年度予算会費収入は、2023年4月7日現在の学生・生徒・児童数×2022年度予算時と2022年度決算時の学生員数の差異等から算出

翼 隆太	中村 均	福井 健司	土井 豊	[商学部]	山中 亨	内田 昌文	山岸 以知子	齋藤 浩	田中 哲也	佐藤 哲也	川瀬 隆	松本 かよ子
有泉 剛	祖父江 年晃	伊藤 順一	杉谷 由緒	内海 大成	浜田 豊春	岡村 英明	鈴木 太	平井 貴世	永田 孝昭	花森 功	[聖和短期大学]	浜田 尚宏
荒尾 真治	高橋 穰	武市 重紀	堀越 利清	由里 正博	水口 栄二	山田 昭典	長浦 剛典	坂上 正臣	藤井 一成	平山 理	河本 聖子	中野 一博
清瀬 達也	榎本 要	天野 浩之	中後 善文	岩崎 順子	中川 浩	山口 悦代	中城 史史	関田 寿里	高居 健一	川瀬 由佳	松永 和子	豊島 淳
片岡 浩一	山元 法樹	村瀬 謙一	坂本 佳也	雷江 広樹	山田 文彦	水口 圭司	[人間福祉学部] 細見 隆宏	坂本 和弘	松平 明夫	岩田 詠美	岩田 聖子	西崎 順也
石原 明彦	天春 淳	西本 夏也	井上 明	小川 等	小川 等	小川 等	倉田 由美	松本 竜成	忽那 寿一	倉田 由美	森 真理子	辰巳 弘光
狩野 良子	松尾 俊之	加藤 博也	加藤 博也	高見 健	平野 寛治	望月 伸治	大塚 記美代	内田 和嘉	矢野 雅史	内田 和嘉	森 真理子	飯森 良光
辻村 光宗	齋藤 裕之	新井 貴浩	有澤 好美	高見 健	望月 伸治	志水 隆博	小田 貴洋	小川 徹	岩田 詠美	小田 貴洋	松浦 光彦	[初等部]
乾 正人	岸野 裕児	牛尾 裕	松崎 泰	加藤 久典	堀 浩一	堀 浩一	太田 光尋	竹本 昭彦	松浦 光彦	太田 光尋	山本 和也	山本 和也
宮田 彰典	上田 勇次	鈴木 康人	田淵 英祐	高見 健	廣瀬 哲也	廣瀬 哲也	坂谷 和宏	橋本 幸一郎	北庄 司 英雄	粟津 政司	江越 友範	藤本 考秀
山谷 廣一	上田 健	田代 達也	池崎 恒樹	高見 健	福島 和代	福島 和代	藤原 久彦	藤原 久彦	藤原 久彦	藤原 久彦	藤原 久彦	藤原 久彦
田代 達也	前坂 豊	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司	黒子 裕司
[法学部] 小谷 展久	福井 豊	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一	金田 健一
安達 英二	児玉 一宏	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正	村岡 隆正
坂口 浩介	長谷川 由里子	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹	山本 美樹
神長 倉 英二	廣地 修	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香	中林 明日香
前田 頼孝	松田 小鈴枝	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人	西川 敬人
中村 雄大	鳥養 真	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香	稲葉 真方香

イベントレポート

後援会事業として開催している各種イベントの様子をお届けします。

代議員会

2023年6月24日開催

代議員会とは、後援会の総会にあたり、前年度の事業報告や決算、新年度の事業計画や予算案について協議されました。各校から近況をお知らせいただいた後に、日頃よりお世話になっております教職員の方々をお招きした懇親のひと時を持ち、親睦を深めることができました。会の目的達成のため後援会員である皆さまから頂戴した声を後援会事業に活かしてまいります。



父母歓迎企画

Let's go to the Stadium!



本事業は、父母への還元はもちろん、学生活動の支援も目的としています。家族とともに、試合会場で関西学院を身近に感じていただきたいという思いから、近畿圏外での開催も計画中です。実際に試合会場で、皆さまからの応援を受けた学生の声を紹介します。次年度の開催も、奮ってご参加ください。



硬式野球部：2023年4月16日開催



アメリカンフットボール部：2023年4月22日開催

Student's Voice

この度は、甲子園に多くの方がお越しくださいました。3年ぶりにイベントを開催することが出来たこと、参加者や関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。試合は1点差で敗北、ご声援にお応えすることができませんでしたが、皆さまの応援の前で試合ができることの喜びを痛感しました。この悔しさをバネに、来年こそ勝利できるよう部員一同精進して参りますので、変わらぬ熱い応援をよろしくお願いいたします。

関西学院大学体育会硬式野球部 4年生 主務 川内 遼大



保護者交流会

後援会では、教育懇談会を補完することを目的とした保護者交流会を10数か所にて開催しています。開催地域は隔年ごとに変わりますが、4年ぶりに通常どおり開催している地域で参加された後援会員の声を紹介します。スケジュールは後援会Webサイトをご覧ください。

▶ 後援会Webサイト
<https://kgkouenkai.jp/event/2023/04/2023.html>



宮崎県保護者交流会
2023年6月10日開催

Parent's Voice

就職や国際交流に関する大学のサポート内容が詳細に分かり、子どもに活用させたいと思いました。

VR動画でキャンパスが身近になりました。4時間があっという間に過ぎ有意義な時間でした。



熊本県保護者交流会
2023年7月8日開催

Parent's Voice

とても素晴らしい会でした。今回、同県で不参加だった方にも報告して次回も一緒に参加したいです。

現状がよくわかりました。しっかり大学のサポート体制を活用し、就活に臨んでほしいと思いました。



北海道保護者交流会
2023年7月22日開催

Parent's Voice

セミナーが参考になったのはもちろん、懇親会で様々な方と交流でき、たくさんのご縁を感じることができました。

とても参考になりました。特に親へのアドバイスが心に残っています。

父母歓迎企画

KWANSEI GAKUIN WELCOME CONCERT

2023年4月23日開催

新年度を迎えた西宮上ヶ原キャンパスで、応援団総部吹奏楽部によるコンサートを開催しました。音楽を通じて関西学院を体感するこの企画も、今後近畿圏外での開催を計画しています。次回の開催時も、子どもから大人まで幅広く楽しめる素晴らしい音楽の時間を、共に過ごしましょう。



Student's Voice

去る4月23日、関西学院後援会様の多大なご支援のもと、また当日たくさんの方にご来場いただき、本コンサートを4年ぶりに対面で無事開催することができましたこと、心より感謝申し上げます。学院全体での「父母歓迎企画」で演奏の機会をいただけることを誇りに思いつつ、今後もより多くの方にお楽しみいただけるよう精進してまいります。来年の4月、再び皆さまにお会いできますこと、部員一同楽しみにしております。

関西学院大学応援団総部吹奏楽部 4年生 渉外部長 波多 芽生子





10/21-22
Sat Sun

11/4-5
Sat Sun

11/11-12
Sat Sun

新月祭2023

OVER THE MOON

閑静から歓声へ

新月祭を制限なしの対面で開祭するという悲願がかなったこと、
閑静なキャンパスに歓声に戻ることは、私たちにとって月を超えるほどの喜びです。

今年のテーマには、この喜びと感謝の気持ちを感動・夢・希望に変えて

来場者の皆さまにお届けしたいという思いを込めました。

この思いを胸に、実行委員一同活動に励んでまいります。

閑静から歓声へ。

新月祭2023の全体指揮を執る委員長の中島朋也と申します。日々、私たちの活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。3キャンパス全6日程にわたる新月祭を完全対面で制限なく開祭できることを大変嬉しく思います。私たち実行委員と新月祭に参画する学生が、静まり返ったキャンパスを、歓声あふれるキャンパスへ染め上げ、新月祭2023を創ってまいります。また、今年度は「挑戦」をモットーに、これまでになかった企画も準備しておりますので、ぜひお楽しみください。新月祭に関わってくださるすべての方に夢と希望、そして感謝をお届けできればと思っております。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

大学祭総部 新月祭実行委員会

委員長 中島 朋也 (経済学部 3年)



全キャンパス統一企画

新月祭にゴジラ襲来!?

関学のキャンパスにゴジラとちびゴジラが現れるという情報が…。東京丸の内キャンパスでは、映画『ゴジラ-1.0』(11月3日公開)の公開を記念して、11月19日にトークイベントを開催。詳細・申込は「関学 東京」でご検索ください。



神戸三田キャンパス

- 三田イベント**
ミニゲームや工作など、誰もが楽しめる様々な企画を行います。
日時 10月21日(土) 12:00~16:30 10月22日(日) 10:00~16:00
- 三田お笑い**
お笑い芸人さんをお呼びして面白いネタを披露していただき、笑いで新月祭を盛り上げていきます。
日時 10月22日(日) 11:30~12:30
- 三田トークショー**
著名人をゲストに迎え、トークショーと様々な企画を行ってまいります!
日時 10月21日(土) 16:00~17:00

“繋がる”新月祭

2023年度、三田キャンパスで代表を務める岸紘葵です。私たちはオンライン・対面開祭の両方を経験し、改めて対面で人と人が「繋がる」ことの大切さを実感しました。オンライン化が進む中、改めて対面で開催できること、ご来場される地域の方々や学校関係者、協力してくださった方々と繋がることのできることに、当たり前の日常が戻ってきたことに感謝し、運営に励みたいと思っています。コロナウイルスによる制限のない新月祭は4年ぶりです。例年の盛り上がりを超えるような新月祭を創り上げられるよう精進してまいりますので、応援よろしく願っています。

大学祭総部 新月祭実行委員会
副委員長・三田代表

岸 紘葵 (総合政策学部 3年)



西宮上ヶ原キャンパス

- 上ヶ原イベント**
来場者投票と審査員の評価で模擬店No.1を決めます!投票者には豪華景品が当たるチャンスです!
予選 11月4日(土) 12:30~17:30 11月5日(日) 10:00~13:00
決勝 11月5日(日) 15:15~16:00
- 上ヶ原イルミネーション**
中央芝生でイルミネーション企画を行います。上ヶ原学祭最後を彩る企画です。
日時 11月5日(日) 18:00~20:00
- 上ヶ原トークショー**
神木隆之介さんをお迎えし、中央講堂にて1時間のトークショーを行います!
日時 11月5日(日) 14:00~15:00
- 上ヶ原ライブ**
中央芝生にアーティストをお呼びし、あの時計台の前で無料野外ライブを実施します!
日時 11月4日(土) 15:00~16:00(未定)

“笑顔”あふれる新月祭へ

今年度、上ヶ原キャンパスの代表を務める河井周太です。今日、コロナ禍という制限に縛られた状況から以前のような日常を取り戻されつつあります。私は、この2年間厳しい制限のある中で新月祭の運営に携わり、どんな状況下であっても「笑顔」は周りの人を幸せにし、自分も幸せにするということに気づかされました。今年度は、新月祭として新たな試みに挑戦し、笑顔あふれる最高の新月祭2023を創りあげていきたいと思っています。それでは、皆さまと新月祭2023でお会いできることを楽しみにしております。

大学祭総部 新月祭実行委員会
副委員長・上ヶ原代表

河井 周太 (経済学部 3年)



西宮聖和キャンパス

- 聖和あそび**
射的や工作など、皆さんに楽しんで頂ける企画をスタンプラリー形式で行います。
日時 11月11日(土) 12:40~16:45 11月12日(日) 10:00~16:45
- 聖和お笑い**
お笑い芸人さんをお呼びして、面白いネタを披露してもらいます!
日時 11月12日(日) 14:00~15:00
- 聖和フェスタ**
関学生、地域の方々にノンジャンル楽しいパフォーマンスを行ってまいります。
日時 11月11日(土) 13:00~16:00

“感謝”を伝える新月祭

聖和キャンパスで代表を務める前田惟羽です。ようやく本来の新月祭が戻ってきました。新月祭を開祭するにあたり、私たちは多くの方に感謝を伝えなければなりません。今の私たちがいるのは、つらい時期を乗り越えバトンを繋いでくれた先輩たち、私たちの活動を支援してくださった学校関係者・地域の方々、困難を共に乗り越えてきた仲間たちの存在があったからです。そんな多くの方々に「感謝」を伝え、歓声で溢れかえる歴史的な新月祭にしていきたいと思っております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

大学祭総部 新月祭実行委員会
副委員長・聖和代表

前田 惟羽 (教育学部 3年)



Homecoming Day 2023

たのしい! うれしい! なつかしい!
ご家族と母校で過ごすとおきの1日。

11/19 日
10:00▶16:00

事前予約
不要

関西学院 ホームカミングデー
in 西宮上ヶ原キャンパス



保護者の皆さまへ

関西学院ホームカミングデーは、同窓の方はもちろん、後援会員である保護者の皆さまも含めたKGファミリーがキャンパスに集うイベントです。後援会では、「保護者の立場から後援をなす」という会の目的のもと、このイベントをバックアップしています。

コロナ禍においては、皆さまにご来校いただく機会が損なわれていました。今年は、昨年までのように制限や予約枠を設けることなく、多くの方をお迎えできるよう準備を進めています。右記のプログラムのほか、来場記念特典のプレゼントや、学生・教職員による関西学院の学びを体験できるプログラムなども開催予定です。

ぜひ気軽にお越しいただき、関西学院が誇るキャンパスの美しさや歴史をご体感ください。この日が皆さまにとって良い思い出になることを願っています。

詳細はWebサイト・SNSをチェック! /



ホームカミングデー お問い合わせ

(主催) 関西学院同窓会
MAIL: dousoukai@kwangaku.net
TEL: 0798-51-3604
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

(主催) 関西学院総務部校友課
TEL: 0798-54-6010

(後援) 関西学院後援会

西宮上ヶ原キャンパスには駐車場はございませんので、公共交通機関(電車・バス等)をご利用ください。

Program

- 総合受付**
9:30~15:30 西宮上ヶ原キャンパス正門付近
当日パンフレットの他、来場者記念グッズが配布されます。
- ホームカミング礼拝・歓迎プログラム**
10:00~11:30 中央講堂
- スペシャルゲスト**
月亭八方・銀シャリによるスペシャルステージ
11:40~12:40 (予定) 中央講堂
- 関西学院音楽祭ステージ**
14:00~15:50 中央講堂
出演: 関西学院交響楽団・応援団総部吹奏楽部・
関西学院グリークラブ
- 茶道部による呈茶、KGグッズ販売**
11:00~16:00 関西学院会館
上記の他にも、現役の関学生(KG CLUB)によるキャンパスツアーやご家族で体験できるプログラムが多数予定されています。また、プログラムは変更される可能性がありますので、WebサイトやSNSにてご確認ください。

ホットと一息!

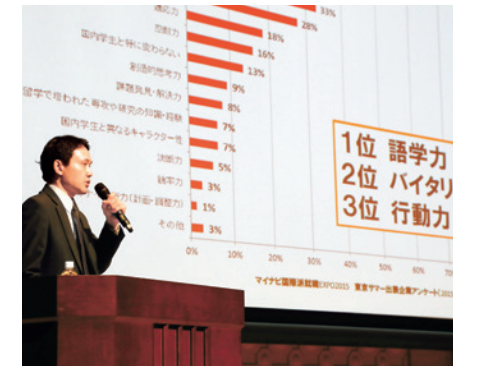
- 10:00~15:00
プラザ(体育館横)・図書館周辺
- **キッチンカー**
キッチンカーが集結!
おいしいメニューが盛りだくさん!
- 
- 
- 11:00~18:00 関西学院会館 レストランポプラ
- **レストランポプラ**
ホームカミングデー当日のお食事やご休憩にいかがでしょうか。
- ランチタイム 11:00~14:00
ティータイム 14:00~18:00(17:00 L.O)
- お問い合わせ TEL: 0798-54-1188(直通)
※営業時間が変更となる可能性があります。

Topic 留学・就職セミナーを同日に開催します

多くの方にご来校いただけるこの機会に、留学・就職に関する大学のサポートを紹介するセミナーを開催します。充実した学校生活の過ごし方や、将来の目標設定について考えるきっかけとしてお役立ていただければ幸いです。大学在学生の保護者さまだけでなく、後援会員皆さまを対象とした内容ですので、ぜひご家族でご参加ください。

●事前予約不要
●ホームカミングデー来場者記念グッズがございますので
正門前総合受付にお立ち寄りください

時間 10:30~11:30 場所 G号館101教室 お問い合わせ 後援会事務局



院長室だより

～二人の関西学院賞～

院長 中道基夫



関西学院創立125周年を記念して、「Mastery for Service」を体現する世界市民」として社会に顕著な貢献をした方々の功績を讃えるために関西学院賞が創設されました。これまで、2014年に第1回受賞者として関西学院中学部卒業生で聖路加国際病院名誉院長を務められた日野原重明さん、2015年に第2回受賞者として関西学院中学部・高等部を卒業しカナダにおける日系カナダ人の名誉回復に努められたゴードン門田さんに授与いたしました。

今年度は、以下のお二人に関西学院賞を授与することができました。



授与式(サーロー節子さん)

一人目は、カナダ在住のサーロー節子さんです。サーロー節さんは、ご自身の被爆体験をもとに、世界各国で核兵器廃絶を訴え続け、2017年にICAN=核兵器廃絶国際キャンペーンがノーベル平和賞を受賞したときに、授賞式でスピーチを行われました。サーロー節さんの夫ジム・サーローさんは、関西学院の宣教師としてお勤めであったので、サーロー節さんも上ヶ原キャンパスの外国人住宅で生活されていました。サーロー節さんへの関西学院賞授与式は2020年5月に予定されていましたが、COVID-19

によるパンデミックによってカナダからの渡航も授与式の開催もかないませんでした。2023年5月10日に、3年を経てようやく授与式を開催できたことは、より一層大きな喜びでした。

二人目は、今年6月に関西学院大阪インターナショナルスクールを卒業された川崎レナさんです。川崎レナさんは、14歳で国際的NGOの日本支部「アース・ガーディアンズ・ジャパン」を立ち上げ、環境問題、教育問題に取り組んでこられました。企業や行政にユースの立場から政策提言などを行ってきた実績が評価され、2022年11月にオランダに本拠を置く児童権利擁護団体キッズライツ財団から「国際子ども平和賞」が授与されました。ノーベル



授与式(川崎レナさん)

平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんや環境活動家グレッタ・トゥンベリさんも受賞された賞です。先の3人の方とは違って関西学院賞を18歳で受賞することは、この賞の今後の広がり可能性を示すものであると言えます。長年にわたって活動された方だけではなく、現役の学生の中から関西学院賞にふさわしい人が出てくることを切に願っています。



院長室からのメッセージ
「風に思う」(動画)



院長室Facebook



プレゼントのご案内

関西学院の魅力いっぱいのイベントへご招待します！

関西学院後援会通信65号よりすてきなプレゼントをご用意しました。関西学院後援会Webサイトまたは、下記二次元コードよりご応募いただいた方の中から、抽選で関西学院の各団体が主催するイベントに無料でご招待いたします。皆さま、奮ってご応募ください。

応募締切 1 …2023年10月30日(月) 受付分迄
2~9…2023年11月10日(金) 受付分迄

※当選の発表は、各プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

1 関西学院大学応援団総部吹奏楽部
第62回定期演奏会

25組 50名様分

日時:2023年11月24日(金)
開場17:30/開演18:30
会場:兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
※当選の発表は登録いただいたメールアドレス宛に11/10までにご案内いたします。

2 関西学院大学応援団総部チアリーダー部
The 37th K.G. Winter Festa

20組 40名様分

日時:2023年12月22日(金)
開場17:00/開演18:00
会場:尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール
※当選の発表は登録いただいたメールアドレス宛に順次ご案内いたします。

3 関西学院クリスマス
at ザ・シンフォニーホール

30組 60名様分

日時:2023年12月19日(火)
開場17:30/開演18:30
※当日座席指定(当日16:30頃より座席券と交換)
会場:ザ・シンフォニーホール

4 関西学院グリークラブ
第92回 関西学院グリークラブリサイタル

20組 40名様分

日時:2024年2月18日(日)
開場14:30/開演15:30
会場:兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO大ホール
※開場・開演時間は変更になる可能性があります。

5 電子メモ

5名様

8.5インチのサイズ感で、マグネットシールも付属された、場所を問わずどこでも使用できるアイテムです。ご家族間の伝言メモなどにも使用できます。

6 巾着付き
ブランケット
(W850×H700)

5名様

薄くて暖かいブランケット。巾着袋がついていますのでお出かけの際やオフシーズンの収納にも便利です。

7 マウスパッド

5名様

開くと中には付箋が収納されており、思いついたらすぐにチェックできるマウスパッド。ご家庭やビジネスシーンなど、どんな場面でも活躍します。

8 エコバッグ

5名様

ボーダー柄が爽やかなエコバッグ。付属のゴムでまとめればコンパクトに持ち運べます。

9 メモ帳

5名様

A5サイズ、罫線が引かれたメモ帳。木目調の表紙に関西学院のロゴが施されたオリジナルティ溢れるメモ帳になっています。

プレゼントのご応募について

プレゼントのご応募は、関西学院後援会Webサイト「各種申し込み・アンケート」からお願いします。



こちらからご応募ください。

関西学院後援会 各種申し込み



Poplar RESTAURANT レストランポプラ

レストランポプラではモダンアップデートされたアメリカ料理をご提供しています。
緑に囲まれた開放的な空間で、ゆったりとしたひと時をお楽しみください。

ご予約は
こちらから



人気メニューのご紹介

Lunch (11:00-14:00)

ヘルシーでモダンなアメリカ料理のランチを各種ご用意しております。
昆布の旨みを効かせた「UMAMIハンバーグセット」をはじめ、女子会や誕生日会にぴったりのカジュアルコースも人気です。

ピックアップ!人気メニュー「ステーキコース」

- ◆「体にやさしい」にこだわった前菜プレート
- ◆ 本日のパスタ
- ◆ サーロインステーキ(SOYオニオンソース/チミチュリソース)
- ◆ パン
- ◆ レッドチェリーとマジョラムのソルベ
- ◆ 食後のお飲み物



Afternoon tea 2部予約制 (14:30/15:30)

14:00からのカフェタイムでは、季節ごとのテーマに沿って内容が変わる、アフタヌーンティーセットが人気です。上ヶ原キャンパスの、緑に囲まれたリラックスした雰囲気の中で楽しむティータイムは格別です。前日までの要予約メニューとなります。皆さまのご予約をお待ちしております。

スペシャルクーポン

ご予約の際に「後援会通信を見た」とお伝えいただくと、

ご飲食代 **10%OFF**

※有効期限 2023年12月末まで ※前日 17:00 までのご予約に限り
※グループ4名様までご優待 ※他の割引サービスと併用不可



お問い合わせ窓口

レストランポプラ(レストランに関して)

TEL:0798-54-1188

営業時間 11:00-18:00
LUNCH 11:00-14:00
C A F E 14:00-18:00 (L.O.17:00)

駐車場あり

Instagram



予約センター(宴会・婚礼・会議室に関して)

TEL:0798-54-6013

開室時間 | 9:00~17:00

※休館日(年末年始・夏季休館日)は除く



Kwanseigakuin Campus Wedding

◆◆◆ 関西学院での結婚式 ◆◆◆

キャンパスウェディング

関西学院では結婚式をキリスト教主義に基づく生涯教育の一環と位置付けており、結婚式までに司式を行う本学院の宗教主事と「お二人にとって結婚とは何か?」「人を愛することはどういうことか?」といった根本的なことを考える機会が設けられています。
歴史あるキャンパスの礼拝堂での結婚式の後は、会館内のレセプションホールやレストランで、披露宴やパーティ、会食をすることができます。ご結婚をお考えのお知り合いの方をぜひご紹介くださいませ。



◆◆◆ 思い出をカタチに ◆◆◆

フォトウェディング

ランパス記念礼拝堂での撮影だけでなく、関西学院大学のシンボルでもある時計台や、中央芝生、正門などでの撮影も可能です。母校での思い出を振り返りながら、キャンパスの様々な場所での撮影を楽しむことができます。ヴォーリズ建築で有名な関西学院は、まるで海外で撮影しているかのような写真が撮れるのも魅力です。
ご結婚・前撮り・フォトウェディングをお考えのお知り合いの方をぜひご紹介くださいませ。



レンタル・記念撮影・ヘアメイク・着付け 卒業式はかまレンタル受注会

関西学院会館ブライダルスタッフがフルサポートいたします。卒業という門出を彩る特別な着物と袴をご用意しております。古典柄からモダン柄まで幅広いラインナップを取り揃えて、『アンテリーベ』がトータルコーディネートをご提案いたします。
※受注会の開催時期は予約センターにお問合せください。



Amtteliebe



アンテリーベ
卒業式
はかま
コレクション

ウェディングの
お問い合わせは
こちらから



■ 関西学院会館予約センター
ブライダル運営会社
株式会社MITAKA
TEL:0798-54-6013